

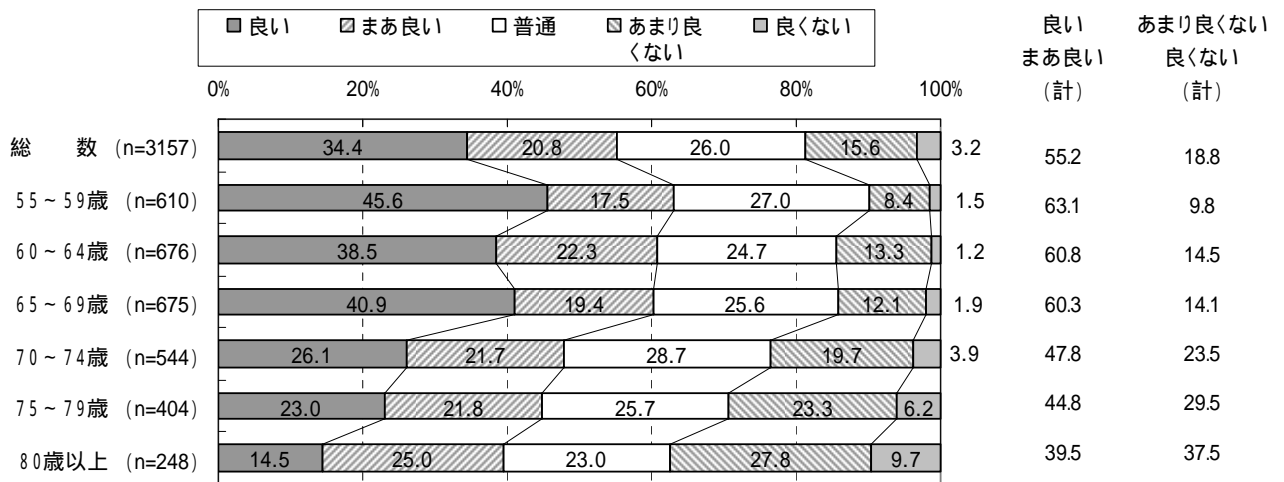
調査結果

1. 健康状態に関する事項

60代までは健康状態が「良い」と回答する人が6割を超えるが、70代に入ると低下傾向。

- 自分の健康状態についてはの意識が「良い」、「まあ良い」とした人の割合は、55歳～69歳では約6割。70代前半から減少し、80歳以上では約4割となっている。(Q1)

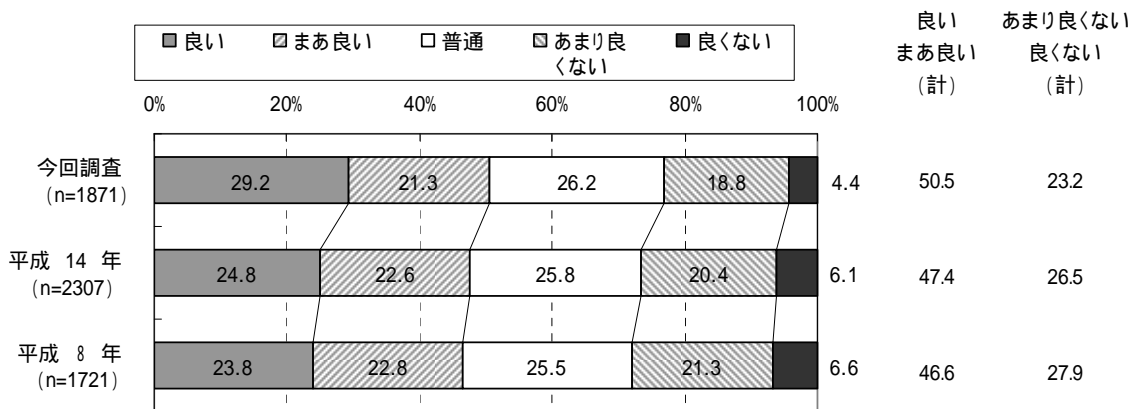
Q1「あなたの現在の健康状態は、いかがですか。」



過去との比較では、健康状態についての意識が良い人はやや増加傾向。今回の調査では「健康状態が良い」と回答した人は5割を超える。

- 過去の調査と比較すると、「良い」「まあ良い」を合計した割合は、平成8年調査では46.6%、平成14年調査では47.4%、平成19年調査では50.5%と微増している。(Q1)

Q1「あなたの現在の健康状態は、いかがですか。」

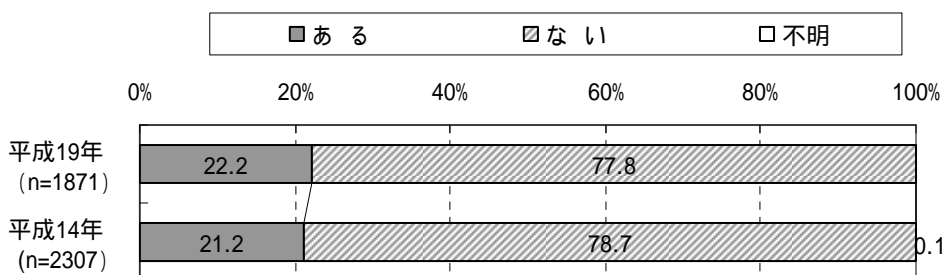
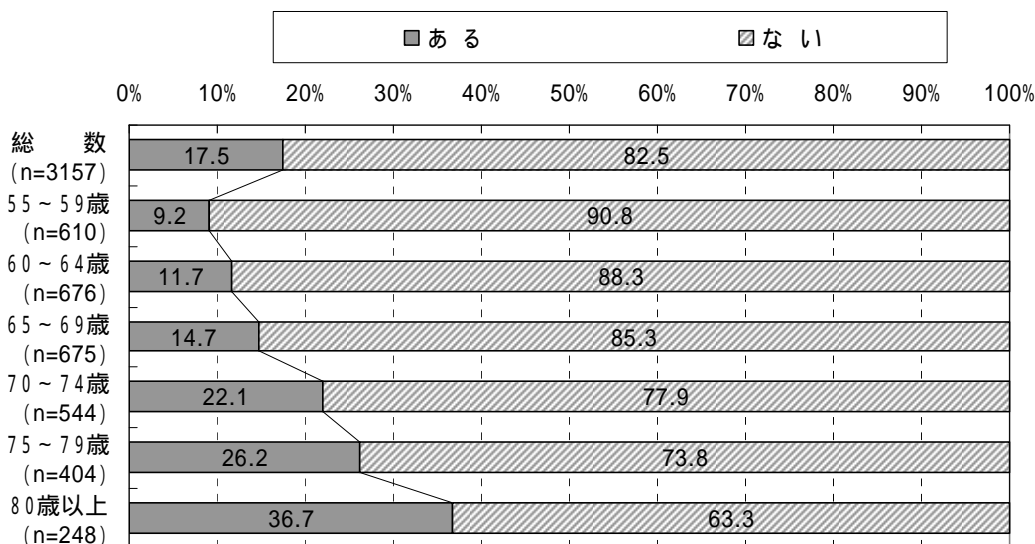


(対象者は65歳以上)

70歳を超えると健康上の問題で日常生活に影響がある人が増加し、2割を超える。

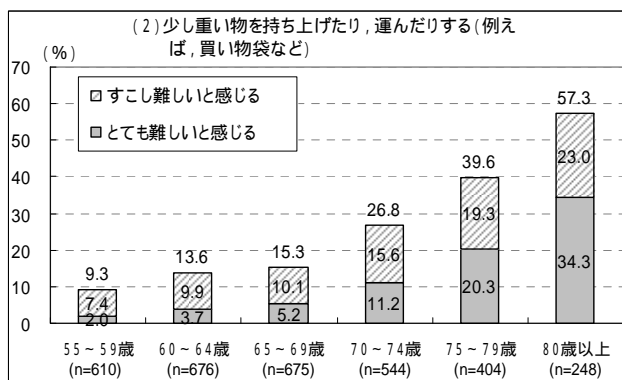
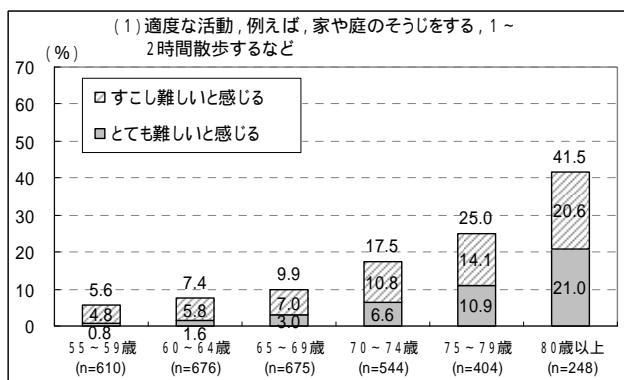
- 健康上の問題で「日常生活に影響がある」人の割合は、50代から60代では1割前後にとどまるが、70代では2～3割、80代では約4割と徐々に増加。(Q2)
- 階段の昇降や荷物の持ち運び等、日常的な活動に支障を感じるのは、60代では1割前後のみ。(Q3)

Q2 「あなたは現在、健康上の問題で日常生活に何か影響がありますか。」

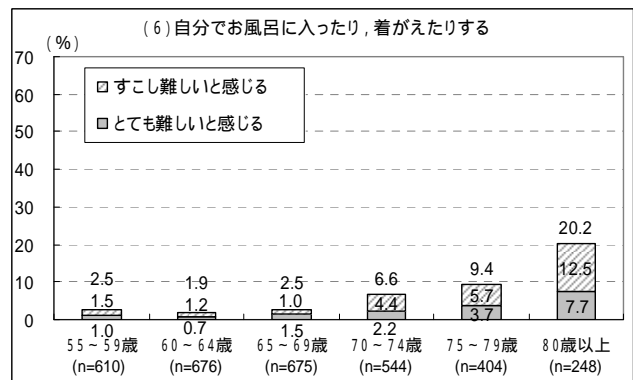
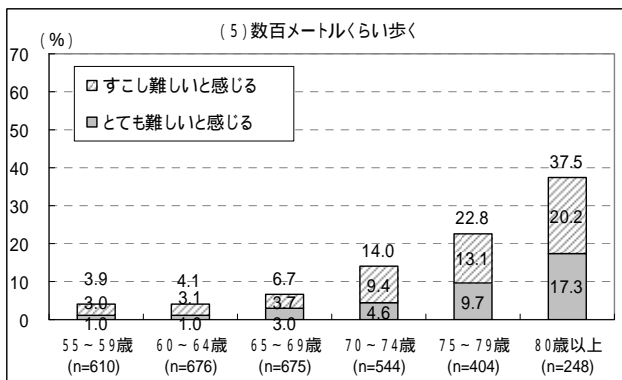
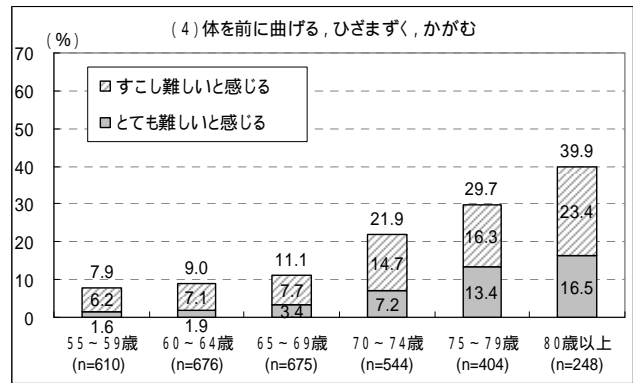
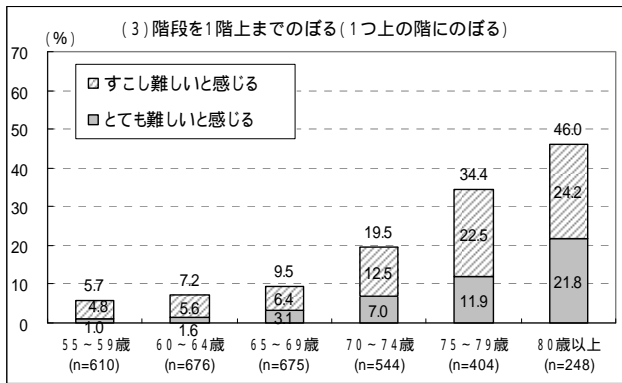


(対象者は65歳以上)

Q3 あなたは健康上の理由で、こうした活動をするのが難しいと感じますか。



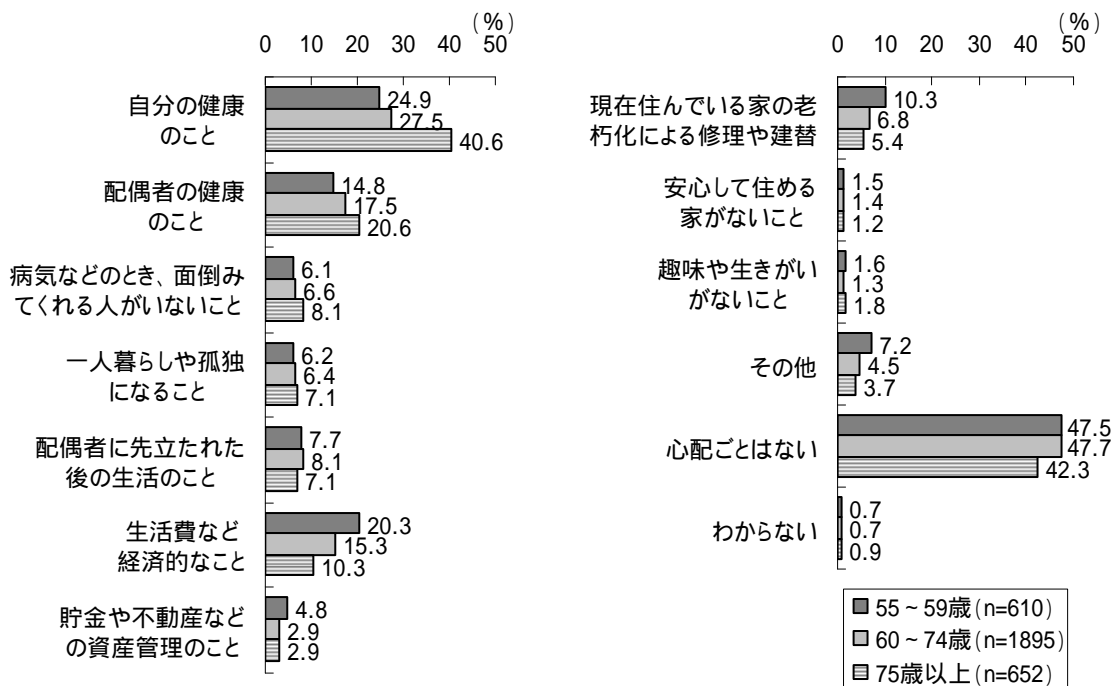
(対象者は65歳以上)



年齢が高くなると、健康についての心配・悩みが増加する一方、経済的な悩みは減少。

- ・ 現在の心配ごとや悩みごとについて、「自分の健康のこと」と回答した人は、50代では24.9%、60～74歳では27.5%であるが、75歳を超えると40.6%となる。一方で、「生活費など経済的なこと」については、75歳以上は10.3%に対し、60～74歳は15.3%、50代は20.3%であった。(Q4)

Q4 「あなたは、現在、心配ごとや悩みごとがありますか」(複数回答)

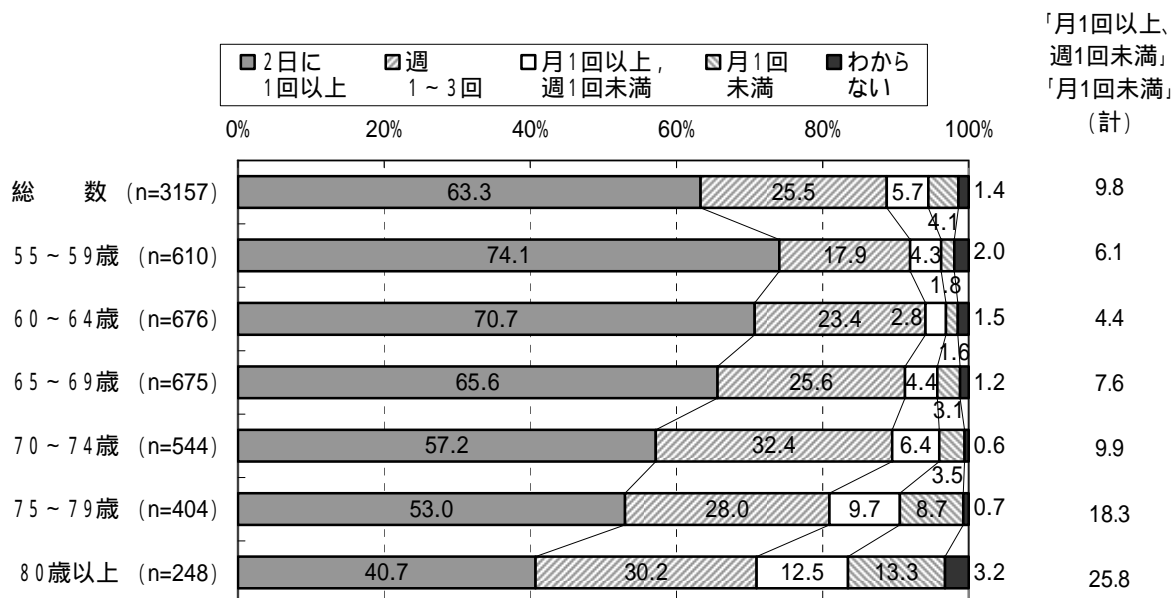


2. 日常生活に関する事項

年齢が高くなると外出頻度は減少する。

- ・ 70代後半では約2割、80歳以上では約3割が「週1回未満」。(Q5)

Q5 「あなたはどのくらいの頻度で外出をしますか。」

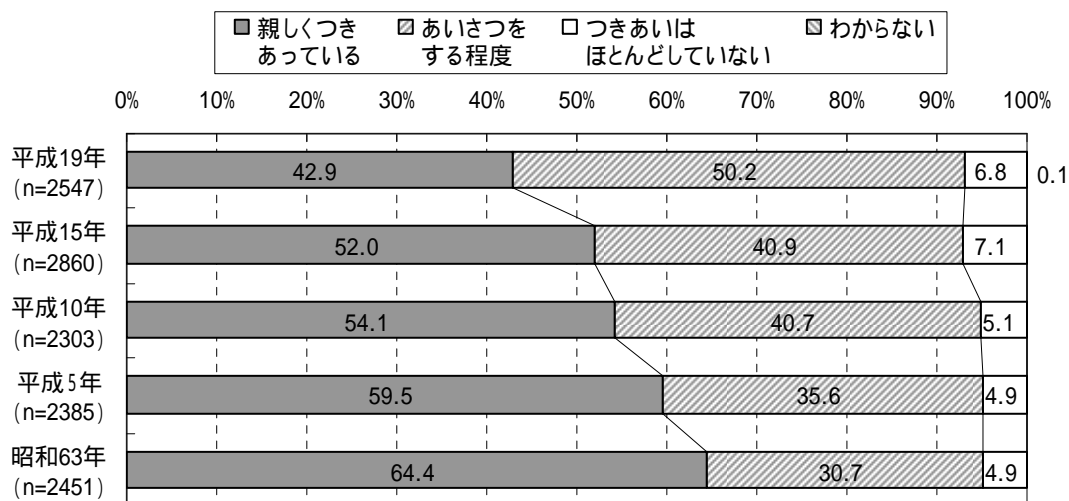


近所の人と「親しくつきあっている」と回答した人の割合は過去に比べ減少している。

- ・ 近所の人と「親しくつきあっている」は昭和63年調査の64.4%から減少して42.9%となっている。大都市では約3割、小都市・町村では約5割となっている。(Q6)

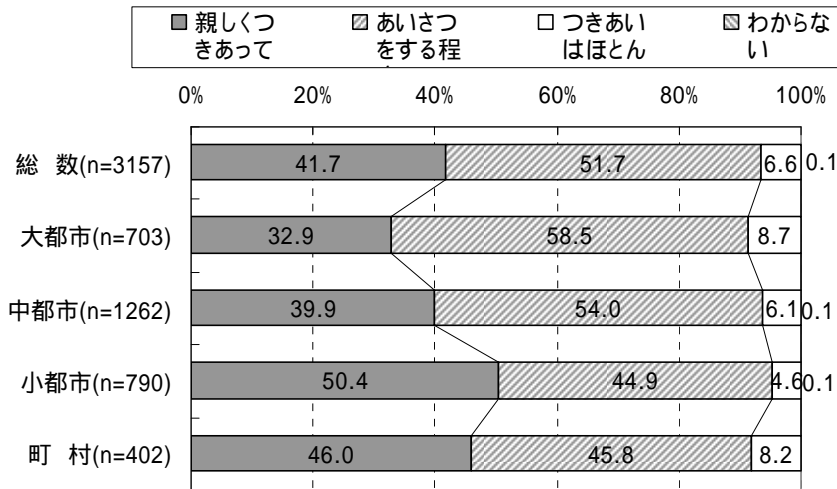
Q6 「あなたは、ふだん、近所の人とどの程度のつきあいをしていますか」

<時系列>



(平成5年は65歳以上を対象、それ以外は60歳以上を対象)

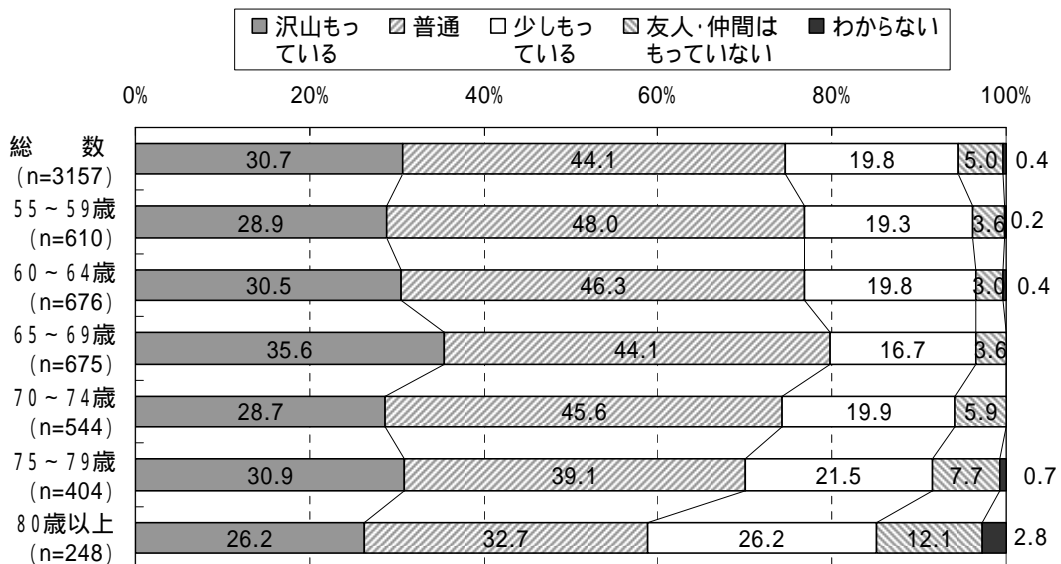
< 都市規模別 >



70代から80代にかけて、「友人・仲間のいない」人が、若干増える。

- ・ 「友人・仲間がいない」と回答した人の割合は、70歳未満では3%台であるが、70歳以降から微増し、70代前半では5.9%、70代後半では7.7%、80歳以上では12.1%であった。(Q7)

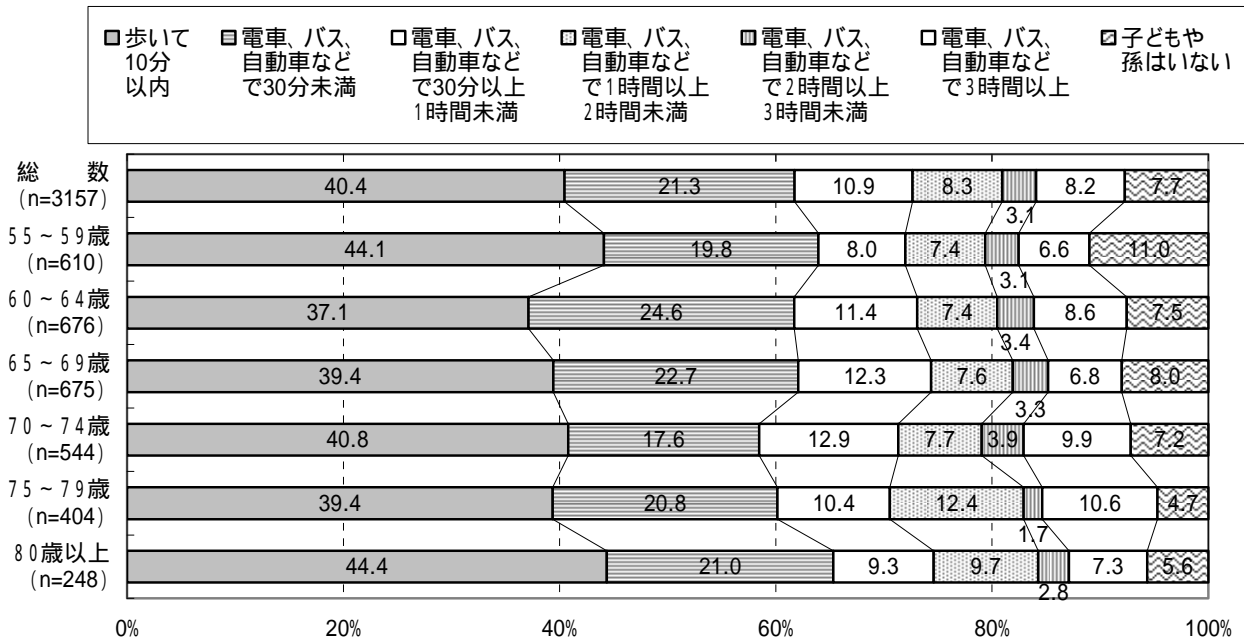
Q7 「あなたは、ふだん親しくしている友人・仲間をどの程度もっていますか。」



約4割が、歩いて10分以内に最も頼りとする子どもや孫が住んでいる。

- ・ 「歩いて10分以内」が約4割、「電車、バス、自動車などで1時間未満」が約3割、「電車、バス、自動車などで1時間以上」が約2割となっている。(Q8)

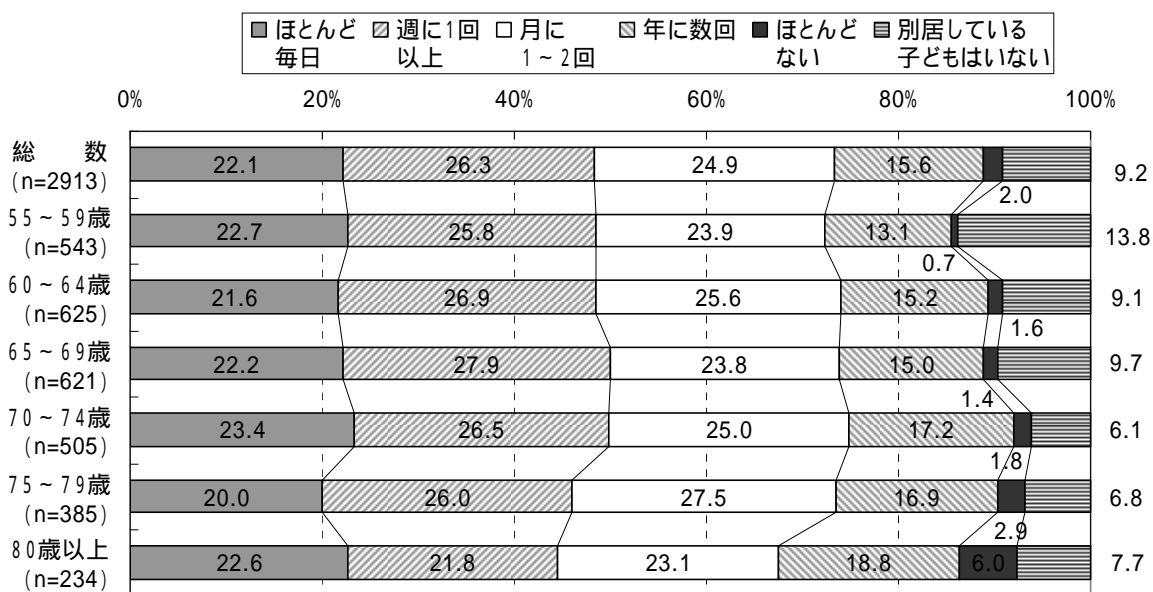
Q8「あなたは、最も頼りとする子ども又は孫の住んでいるところへ日常的な移動の手段(電車、バス、自動車など)で移動するとした場合、どの程度お時間がかかりますか」



4割から5割の人が、週に1回以上、別居している子どもと会ったり電話している。

- ・ 「ほとんど毎日」が22.1%、「週に1回以上」が26.3%、「月に1~2回」が24.9%とほぼ同率で続き、「年に数回」が15.6%となっている。(Q9SQ)

Q9SQ「別居しているお子さんとは、どのくらいの頻度で会ったり、電話等で連絡をとったりしていますか」

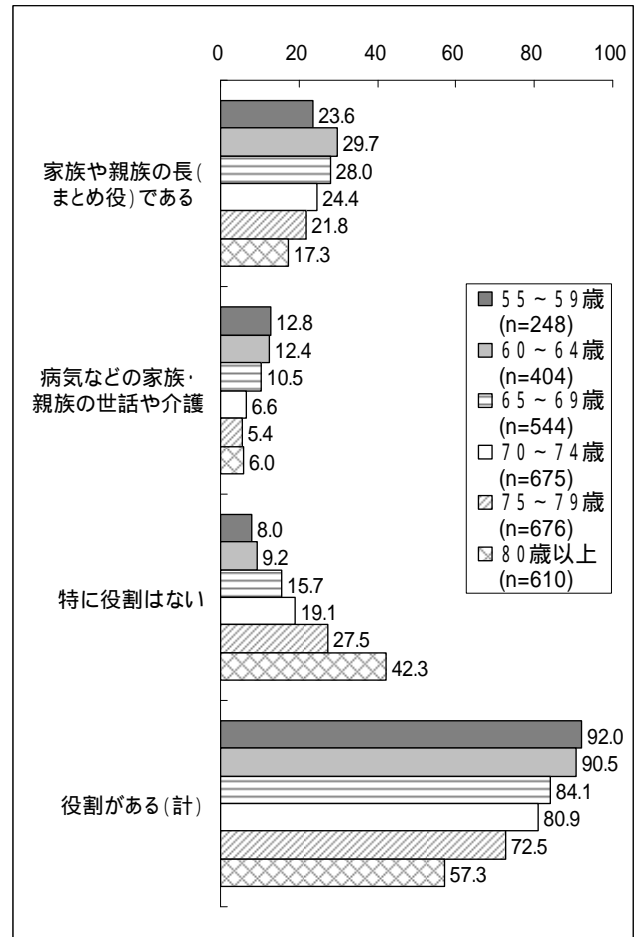
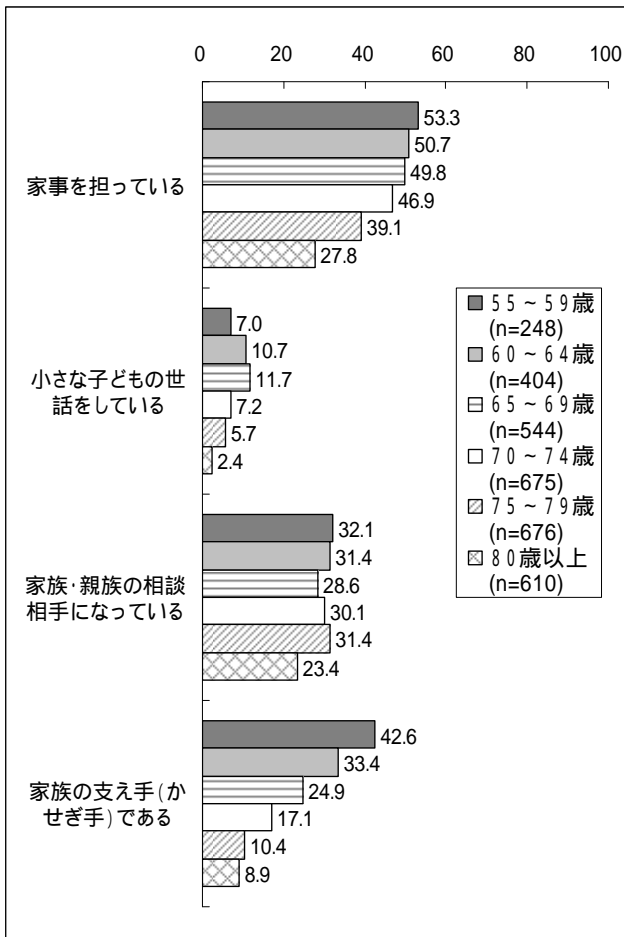


(対象者は子どもがいる人)

70代で約7～8割、80歳以上で約6割の人は家族の中で何らかの役割を果たしている。

- ・ 「家事を担っている」、「家族・親族の相談相手になっている」など、「家族の中で役割がある」人は80歳以上で57.3%、70代後半で72.3%、70代前半で80.9%であった。(Q10)

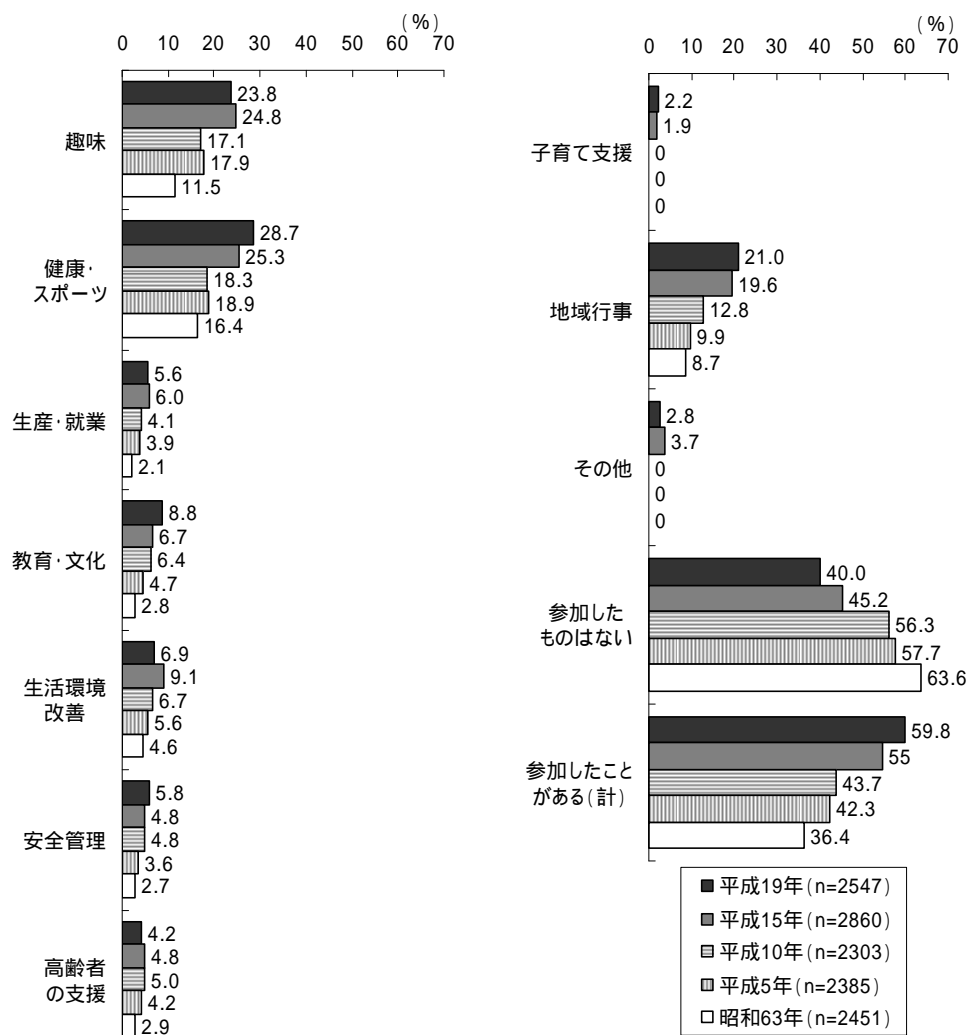
Q10 「あなたは、ご家族や親族の方々の中でどのような役割を果たしていますか」(複数回答)



「趣味」「スポーツ」「地域行事」などの活動に参加したことがある人の割合は、時系列で見ると増加しており、今回調査では約6割は何らかの活動に参加した経験がある。

- ・ 活動内容は、「健康・スポーツ」、「趣味」、「地域行事」が多い。(Q11)

Q11 「あなたはこの1年間に、個人または友人と、あるいはグループや団体で自主的に行われている活動に参加したことがありますか」(複数回答)

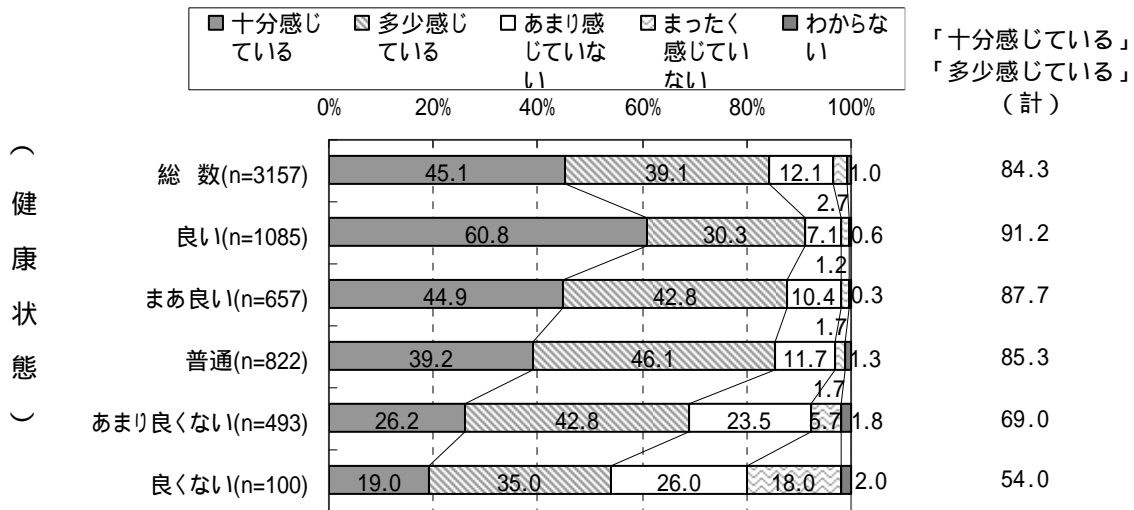


(対象者は60歳以上)

健康状態と生きがいの有無は、強く関係している

- ・ 「健康状態が良い」と回答した人の約9割が「生きがいを感じている」。一方で「健康状態が良くない」と回答した人で、生きがいを感じている人は約5割にとどまる。(Q12)

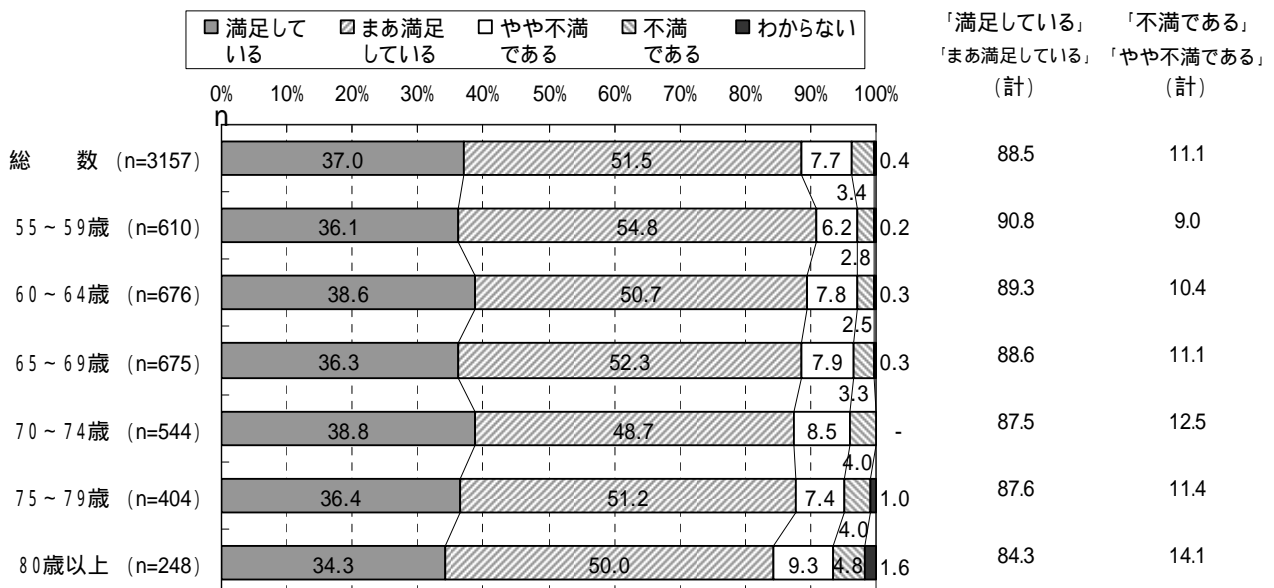
Q12 「あなたは、現在、どの程度生きがい(喜びや楽しみ)を感じていますか」



80歳未満では約90%、80歳以上で約85%が日常生活に満足している

- ・ 日常生活全般について、80歳未満では約9割が満足しており、80歳以上では若干減少するものの、84.3%が満足している。(Q13)

Q13 「あなたは、ご自分の日常生活全般について満足していますか」

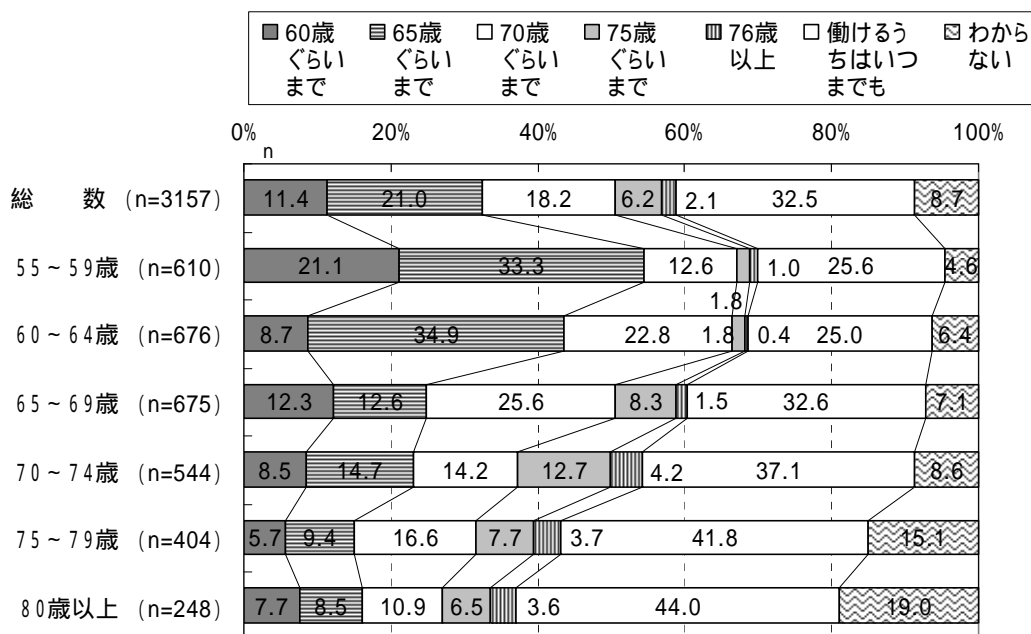


「働けるうちはいつまでも仕事をしたい」と回答する人は 41.2%で、平成 18 年調査の 34.1%から大幅に上昇

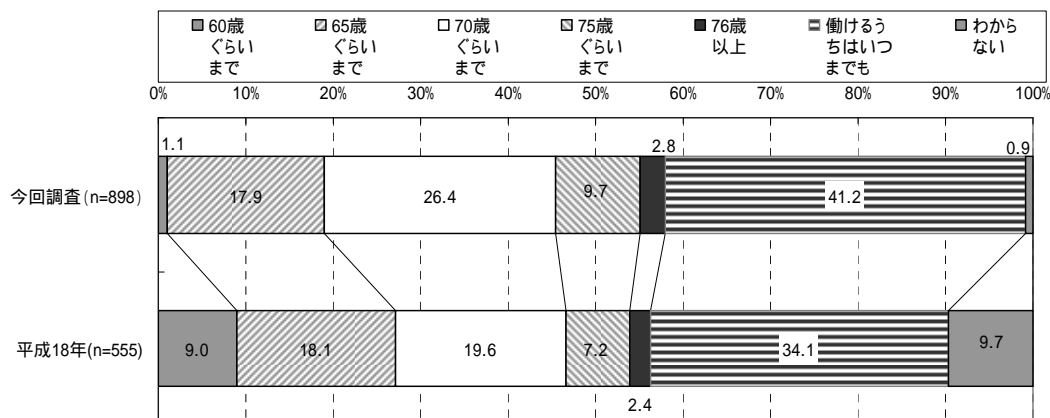
- ・ 仕事をしたい年齢について、50 代では「65 歳ぐらいまで」が最も多く、33.3%であった。一方で、65 歳以上では「働けるうちはいつまでも」が最も多く、75 歳以上では「働けるうちはいつまでも」が 4 割を超える。(Q 1 4)
- ・ 「働けるうちはいつまでも仕事をしたい」と回答する人の割合は、平成 18 年調査の 34.1%から 41.2%となり大幅に上昇。(Q 1 4)
- ・ 就業形態別に退職希望年齢は異なり、常勤の被雇用者では「65 歳ぐらいまで」が最も多い。(Q 1 4)

Q 1 4 「あなたは、何歳ごろまで仕事をしたいですか」

< 年齢別 >

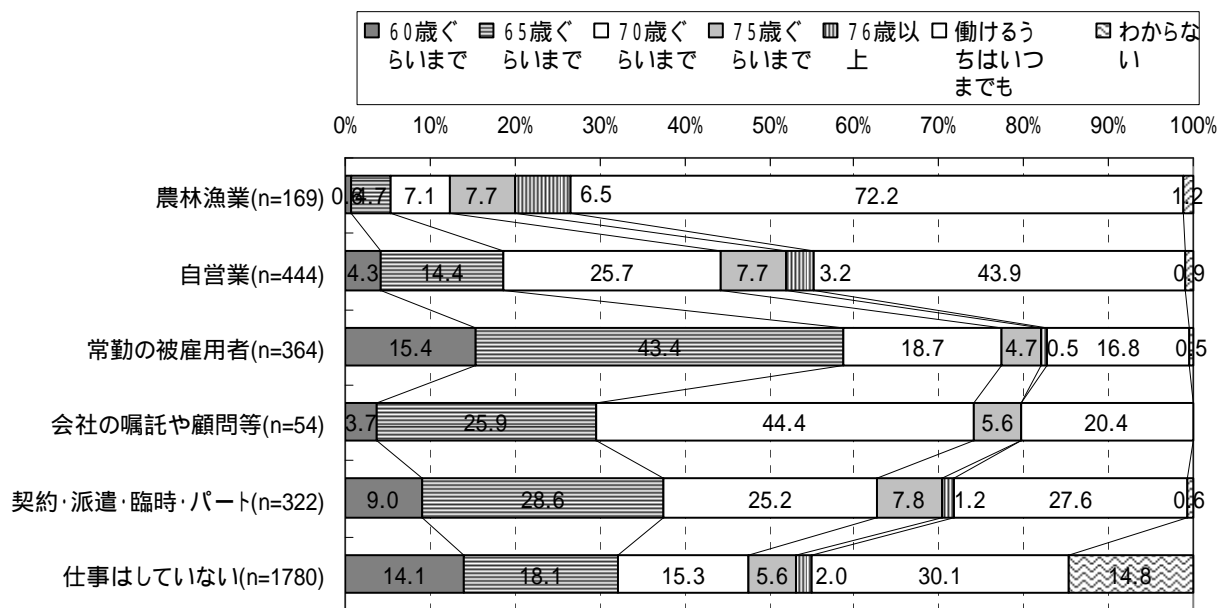


< 時系列 >



(回答者は 60 歳以上)

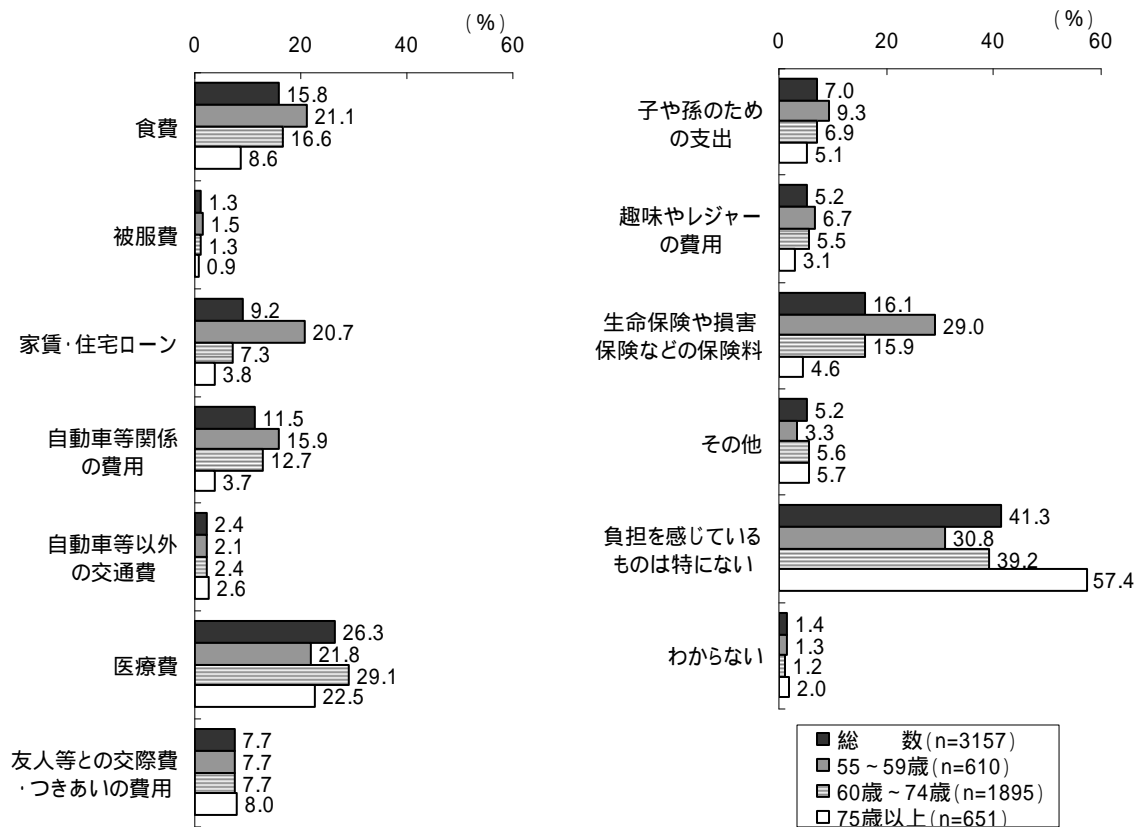
< 就業形態別 >



日常生活の支出において、75歳以上の半数以上は「負担を感じているものは特にない」と回答。

- ・ どの年代においても「負担を感じているものは特にない」との回答が最も高い。(Q15)
- ・ 負担を感じているものとしては、どの年代も「医療費」2割～3割が負担を感じている。以下、「生命保険や損害保険などの保険料」(16.1%)、「食費」(15.8%)、「自動車等関係の費用」(11.5%)、「家賃・住宅ローン」(9.2%)、「友人等との交際費・つきあい費用」(7.7%)、「子や孫のための支出」(7.0%) などとなっている。(Q15)

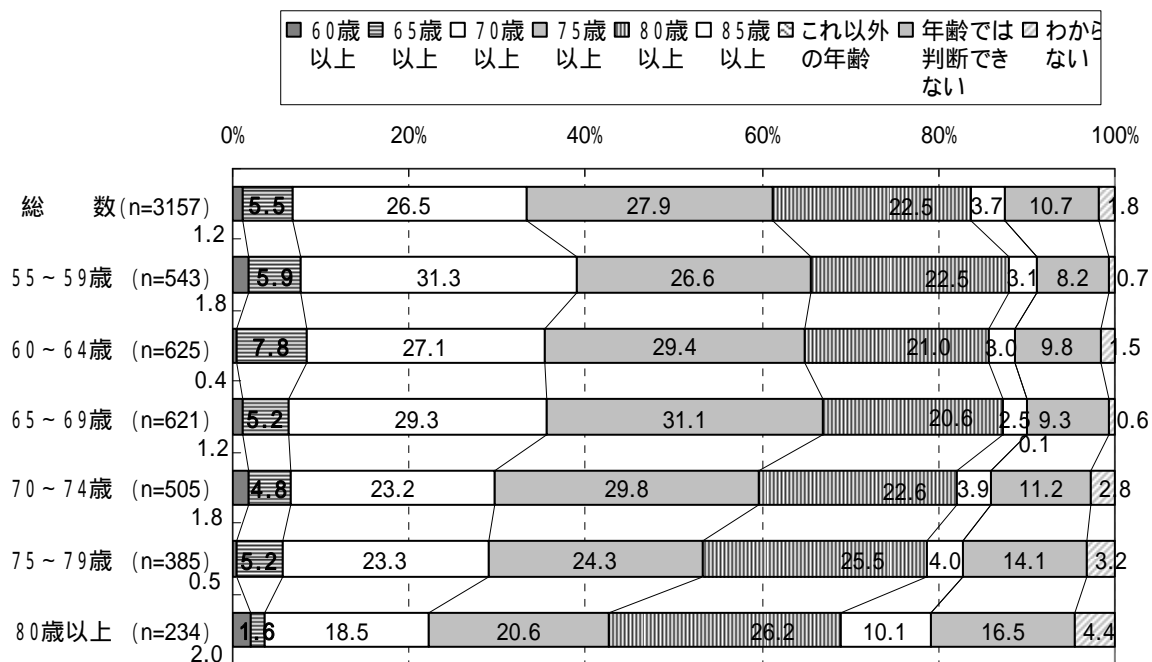
Q15 「あなたは、日常生活の支出の中で、負担を感じている支出はありますか」(3つまでの複数回答)



「支えられるべき高齢者」の年齢について、60代後半の回答者の8割は「70歳以上」、70代前半の半数は「75歳以上」と考えている。

- ・ 50代では「70歳以上」、60代と70代前半では「75歳以上」、75歳以上では「80歳以上」がそれぞれ最も多くなっている。(Q16)

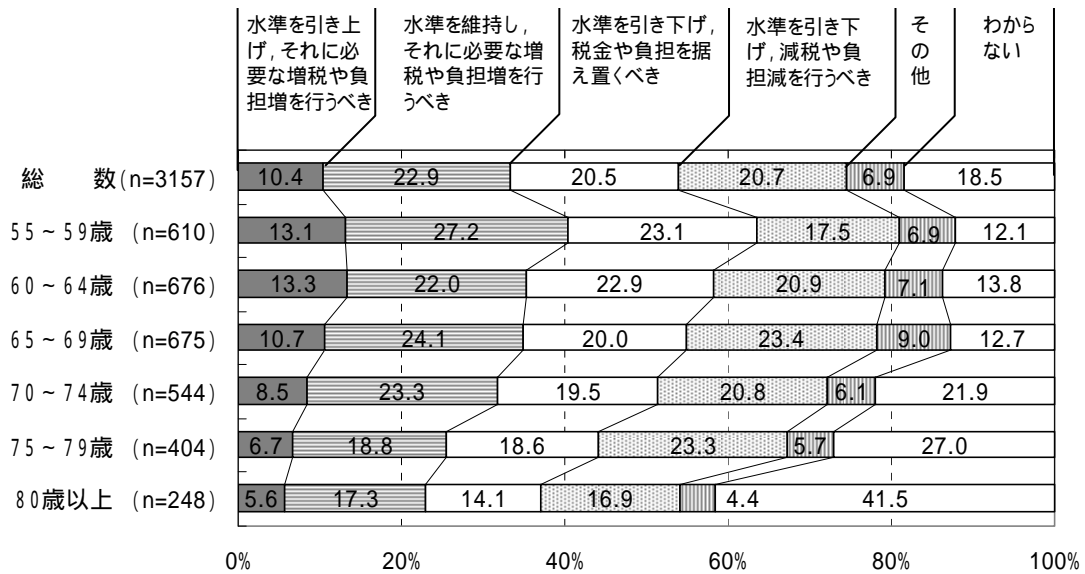
Q16 「あなたは、一般的に支えられるべき高齢者とは 何歳以上だと思いますか」



今後の社会保障給付の水準と税金や社会保障の負担について、考えは様々

- ・ 今後の社会保障給付の水準と税金や社会保障の負担との関係について、「水準を維持し、それに必要な増税や負担増を行うべき」が 22.9%、「水準を引き下げ、減税や負担減を行うべき」が 20.7%、「水準を引き下げ、税金や負担を据え置くべき」が 20.5%である。「水準を引き上げ、それに必要な増税や負担増を行うべき」は 10.4%である。また、「わからない」も 18.5%を占める。(Q17)

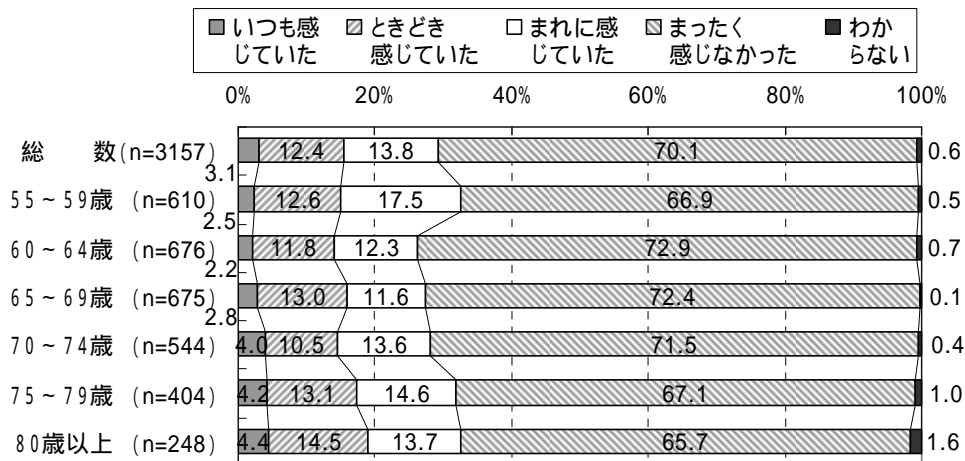
Q17「今後の社会保障給付の水準と、税金や社会保障の負担との関係について、あなたの考えに一番近いのはどれですか」



60歳以上では、年齢が高くなるほど気分が落ち込む傾向がある。

- ・ 過去1か月間に「どうにもならないくらい、気分がおちこんでいた」について尋ねてみると、60代と70代前半では、「まったく感じなかった」が約7割であるが、50代と75歳以上ではやや減少して6割台となる。(Q19)

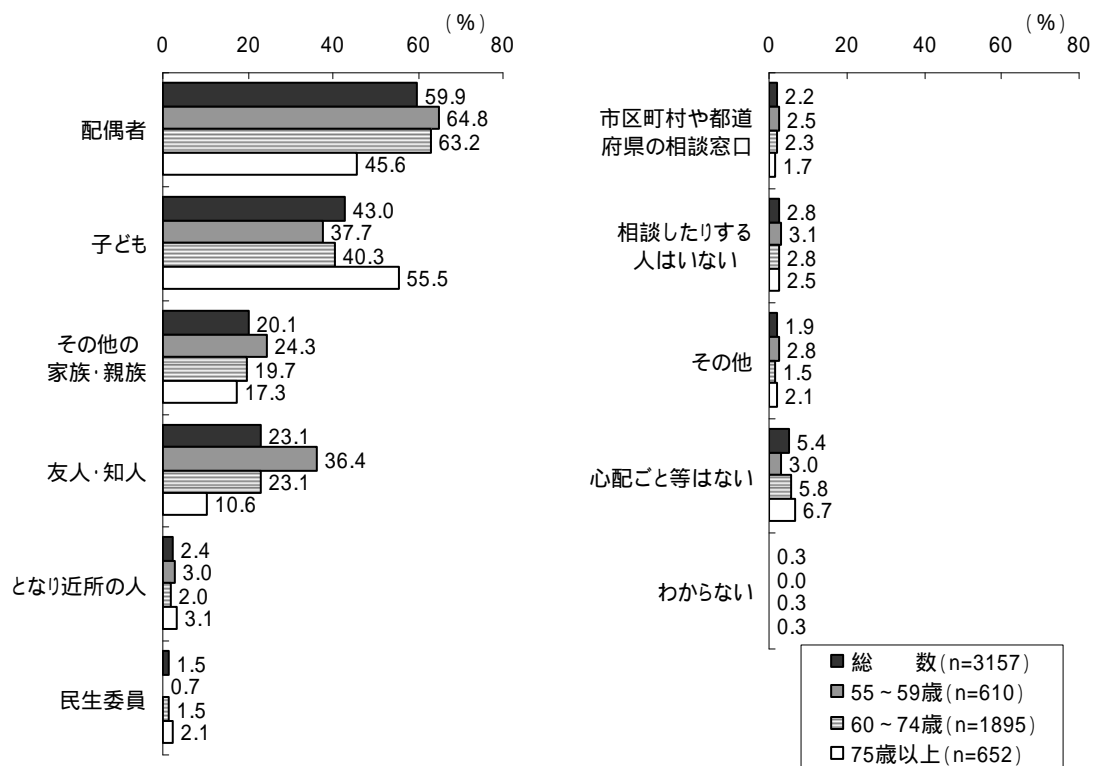
Q19(1)「過去1ヶ月間に、あなたはどうにもならないくらい、気分がおちこんでいましたか」



心配ごとや悩みごとは配偶者に相談。75歳以上では子どもへの相談が多い。

- ・ 総数では、「配偶者」が59.9%で最も高く、以下、「子ども」(43.0%)、「友人・知人」(23.1%)、「その他の家族・親族」(20.1%)などと続いている。(Q20)

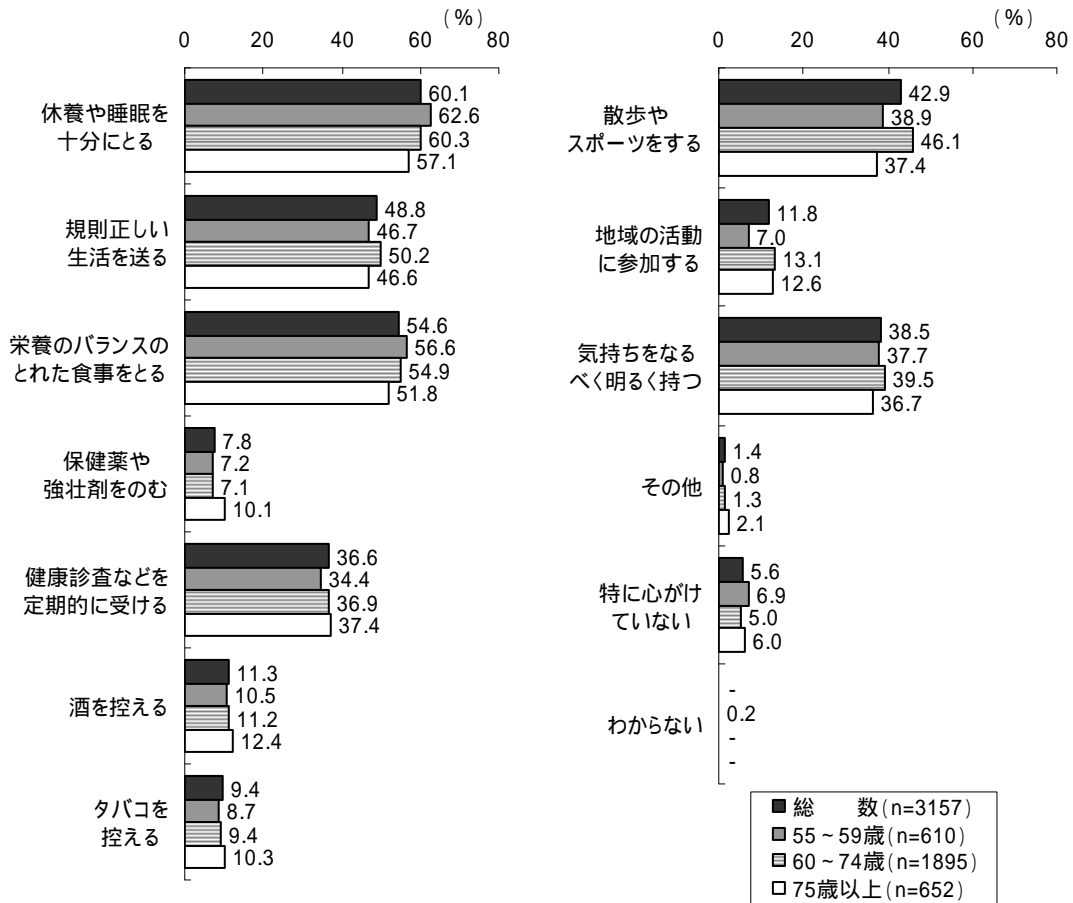
Q20「あなたは、心配ごとや悩みごとができた場合、だれに話を聞いてもらったり、相談したりしますか」(複数回答)



健康の維持増進のために「休養・睡眠」、「栄養バランスのとれた食事」、「規則正しい生活」。

- ・ 総数では、「休養や睡眠を十分にとる」(60.1%)、「栄養のバランスのとれた食事をとる」(54.6%)、「規則正しい生活を送る」(48.8%)、「散歩やスポーツをする」(42.9%)、「気持ちをなるべく明るく持つ」(38.5%)、「健康診断などを定期的に受ける」(36.6%)などの順となっている。(Q 2 1)

Q 2 1 「あなたは、ご自分の健康の維持増進のために心がけておられるのはどんなことですか」(複数回答)



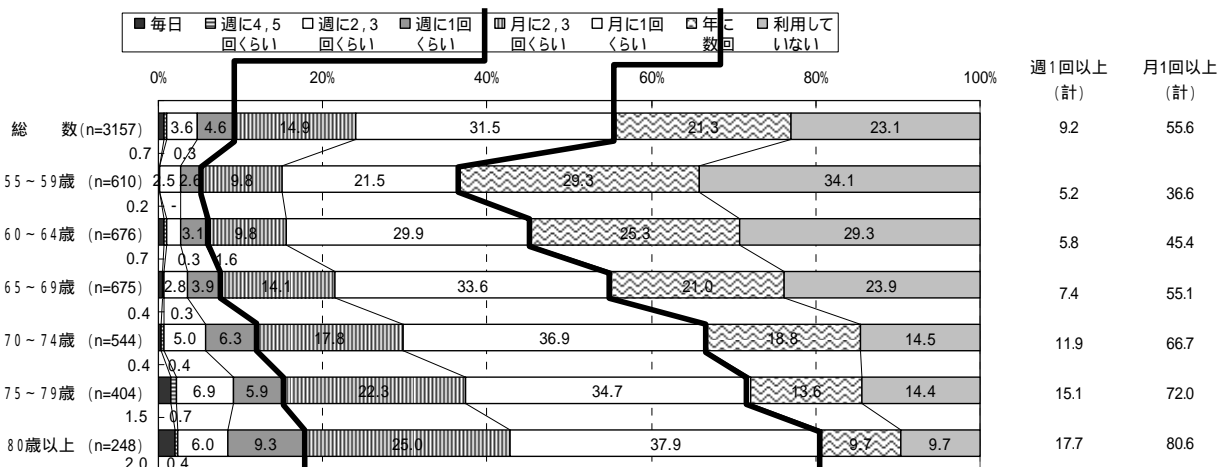
3. 医療に関する事項

年齢が高くなると医療サービスの利用頻度が高くなり、70代では約7割が月1回以上。平成4年と比較すると利用頻度はやや減少。

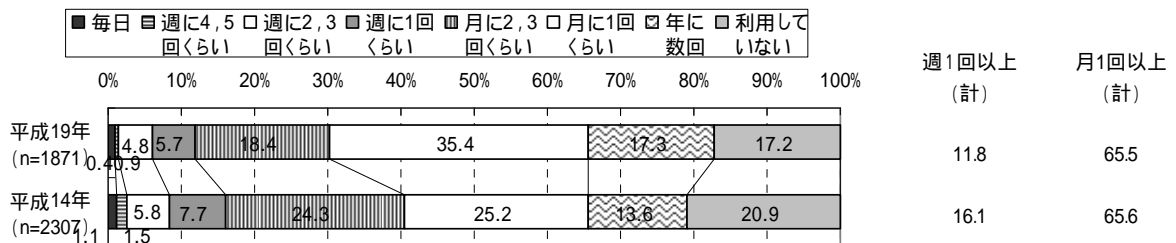
- ・ 月1回以上、医療サービスを利用する人は60代後半で5割超、70代後半で7割超、80歳以上では8割を超える。週1回以上、医療サービスを利用する人は、70歳以上で1割を超える。(Q22)
- ・ 平成14年調査と比較すると、月1回以上医療サービスを利用する人の割合は変化ないものの、週1回以上利用する人は減少した。(Q22)

Q22「あなたは、病院や診療所など医療施設へ通院したり、往診にきてもらうなど、「医療サービス」を日頃どのくらい利用しますか」

<年齢別>



<時系列>



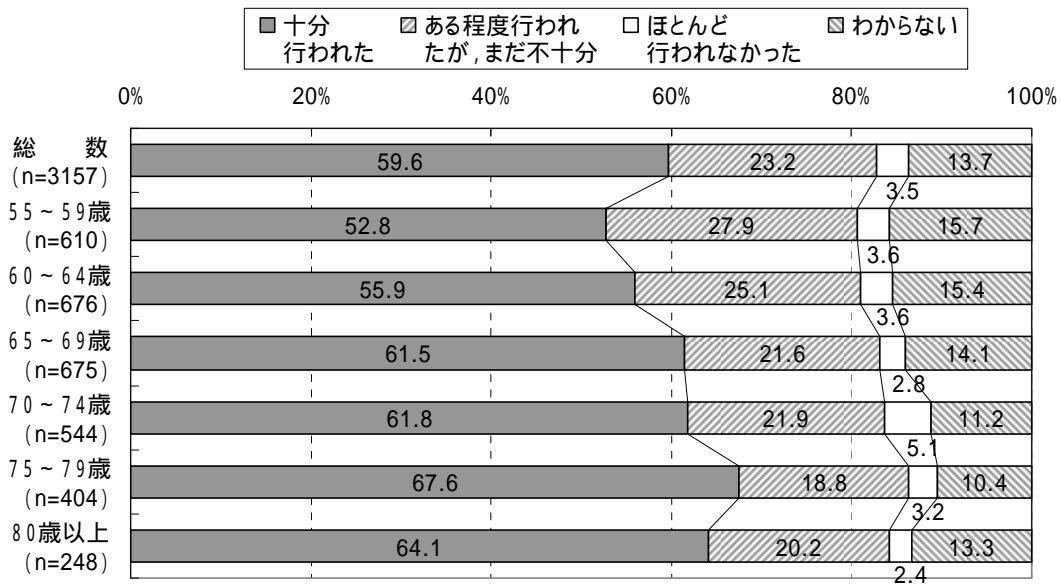
(対象者は65歳以上)

インフォームド・コンセントが「十分に行われた」人は、5年前と比較しほぼ倍増

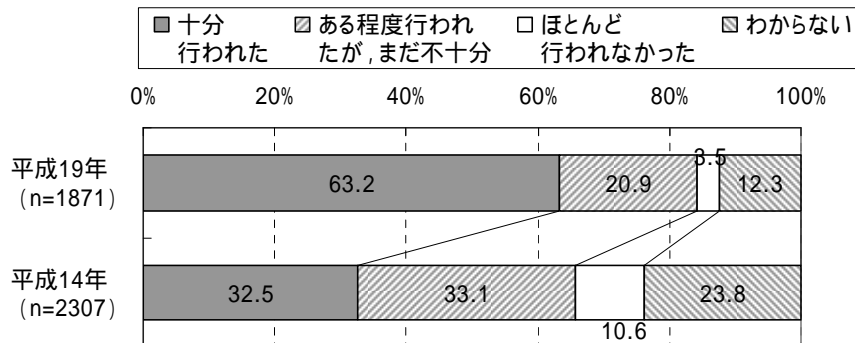
- ・ インフォームド・コンセントが「十分に行われた」は5年前の平成14年調査では、32.5%だったが、今回の調査では63.2%と大幅に増加している。(Q23)

Q23「あなたは、治療を受けた際に、医療機関から十分な説明を受けて、同意の上で治療が行われましたか」)

<年齢別>



<時系列>



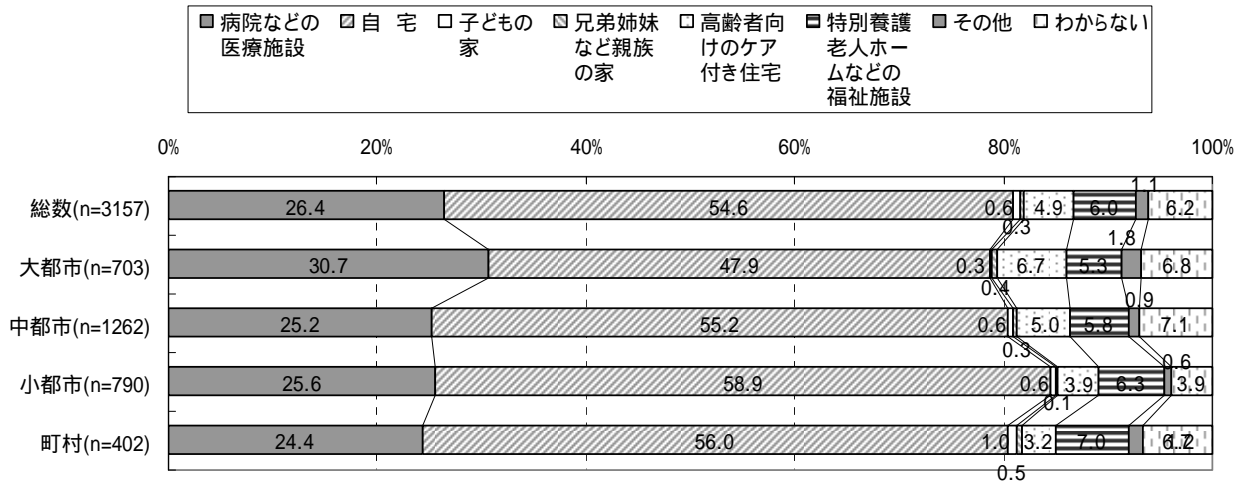
(対象者は65歳以上)

自宅で最期を迎えることを希望する人は、54.6%（男性63.8%、女性46.3%）

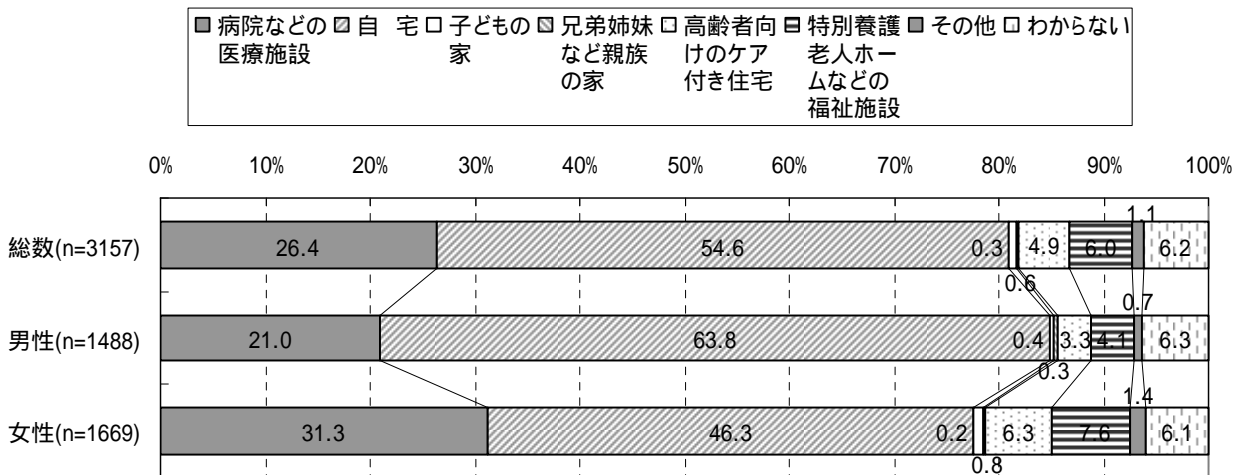
- ・ 総数では、「自宅」が54.6%で最も多い。特に「大都市」よりも「小都市」や「町村」、「女性」よりも「男性」で「自宅」を希望する割合が高い。（Q24）

Q24 「万一、あなたが治る見込みがない病気になった場合、最期はどこで迎えたいですか」

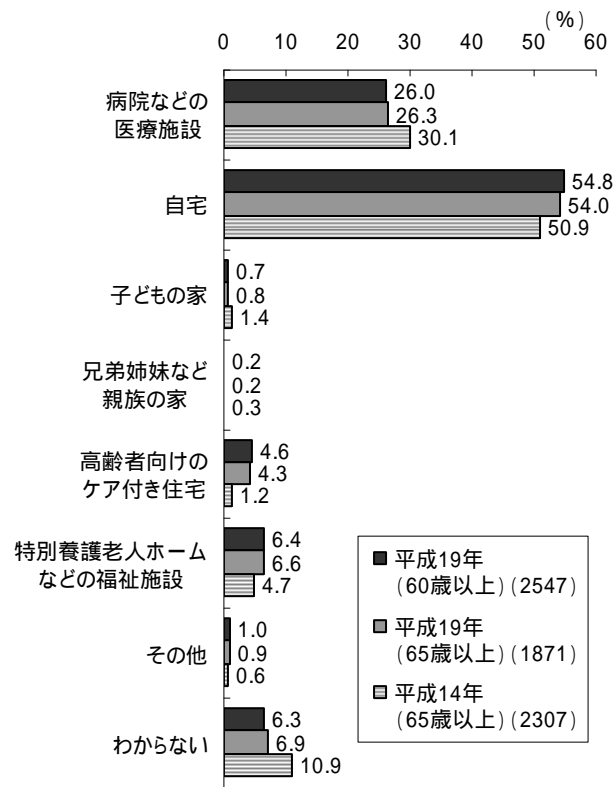
< 都市規模別 >



< 男女別 >



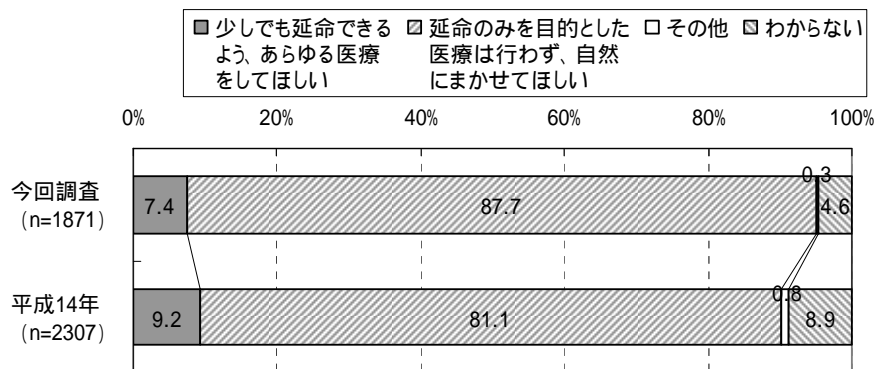
<時系列>



自分が延命医療を受けたい人は7.4%だが、家族に延命医療を受けさせたい人は21.2%

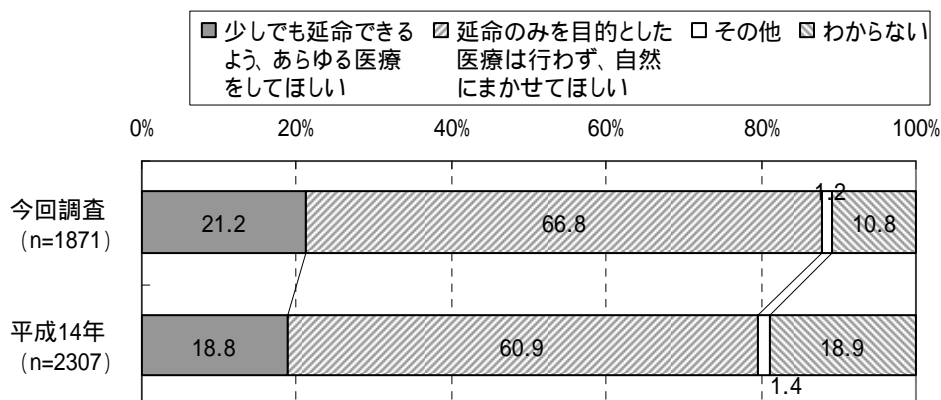
- ・ 自分が病気で治る見込みがない場合、「延命のみを目的とした医療は行わず、自然にまかせてほしい」が 87.7%を占め、「少しでも延命できるよう、あらゆる医療をしてほしい」は 7.4%であった。(Q25)
- ・ 一方、家族が病気で治る見込みがない場合、「延命のみを目的とした医療は行わず、自然にまかせてほしい」が 66.8%、「少しでも延命できるよう、あらゆる医療をしてほしい」は 21.2%であった。(Q26)

Q25 「万一、『あなた』の病気が治る見込みがなく、死期が近くなった場合、延命のための医療を受けることについてどう思いますか」



(対象者は65歳以上)

Q26 「万一、『あなたのご家族』の病気が治る見込みがなく、死期が近くなった場合、延命のための医療を受けることについて、どう思いますか。」

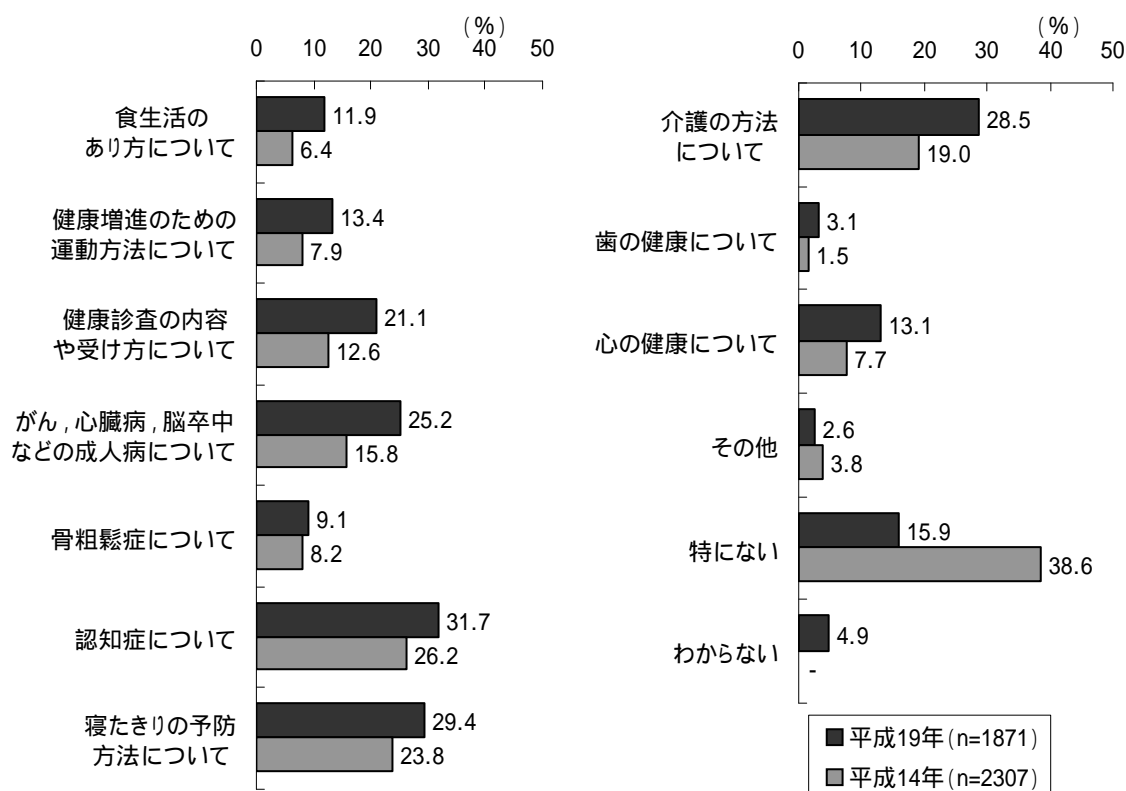


(対象者は65歳以上)

高齢者の健康管理について、国や地方自治体への要望が高まっている

- ・ 高齢者の健康管理について、平成 14 年調査と比較して、どの項目についても国や地方自治体への要望が高まっている。(Q27)
- ・ 「認知症」は 31.7%、「寝たきりの予防方法」は 29.4%、「介護の方法」は 28.5%、「がん、心臓病、脳卒中などの成人病」は 25.2%など。(Q27)

Q27「高齢者の健康管理について、あなたが国や地方自治体に力を入れてほしいことは何ですか」(3 つまでの複数回答)

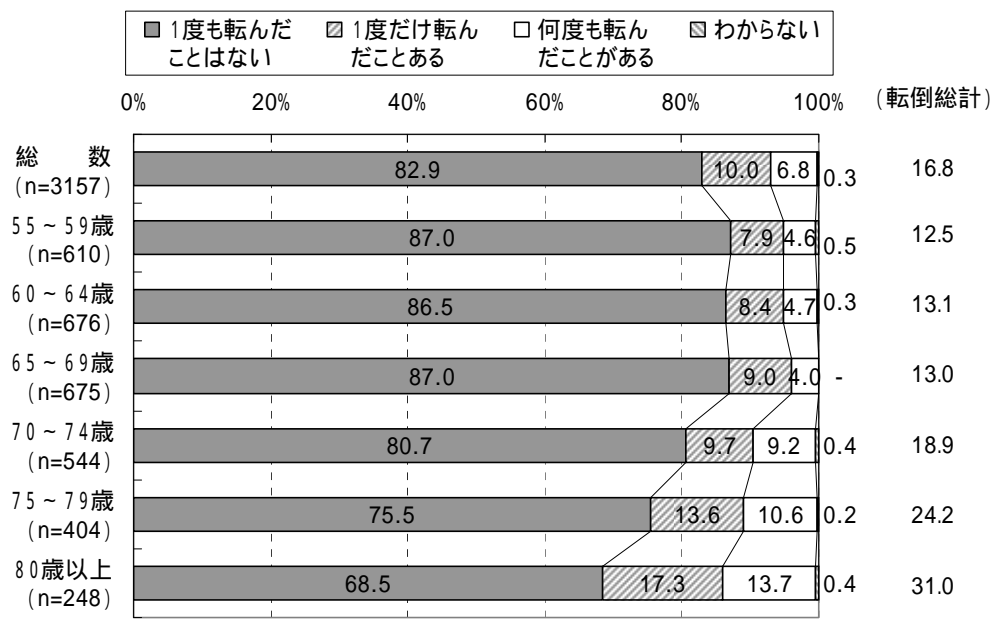


(対象者は 65 歳以上)

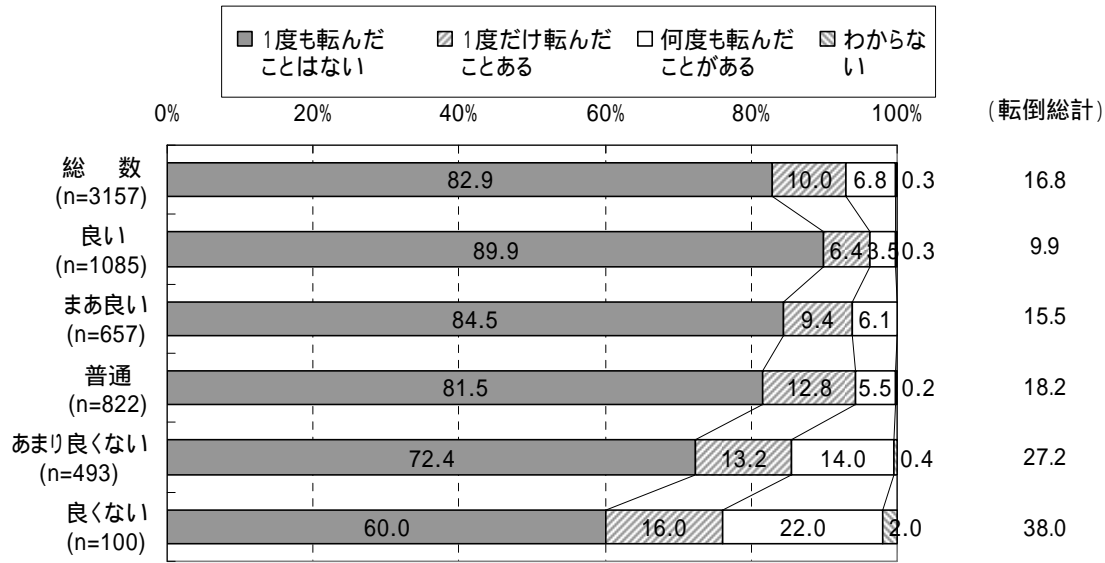
「一度も転んだことはない」と回答した人は全体で8割を超えるが、70歳すぎから転倒事故は増加傾向。

- ・ 70歳を超えると、転倒事故が増加し、70代では約2割、80歳以上では約3割が転倒事故の経験がある。(Q28)
- ・ また、健康状態が良くない人ほど転倒事故を経験している割合が高い。(Q28)

Q28「あなたはこの1年間に、お住まいの中庭や、バルコニーなどで転んだことがありますか(けががない程度の転倒も含む)」



<健康状態別>



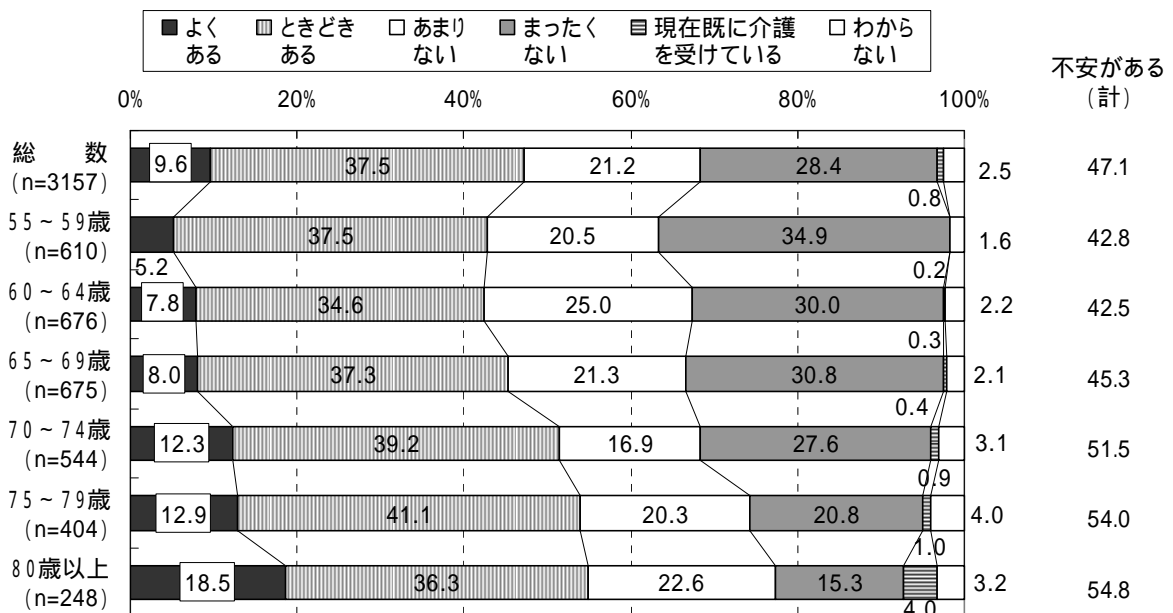
4. 福祉に関する事項

将来介護を必要とする不安は、年齢が高くなるほど増加する傾向

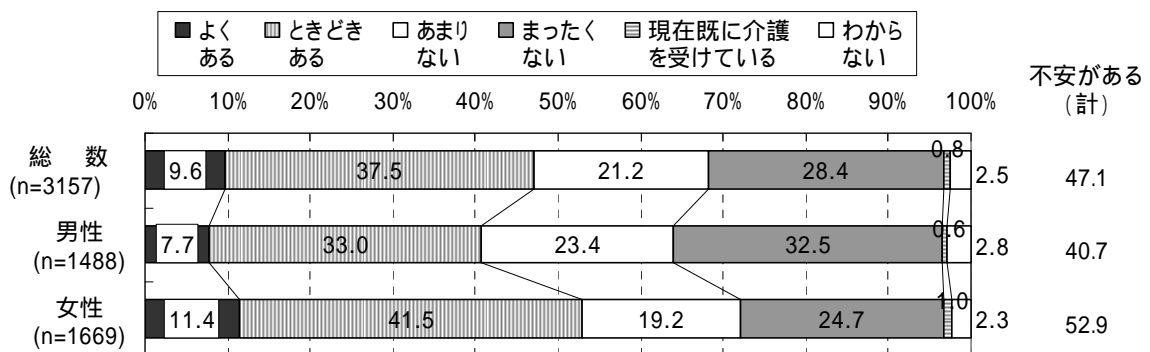
- ・ 自分が将来介護を必要とする不安について、50代では4割以上が「ある」と回答。年齢が高くなるほど増加する傾向であり、「ある」との回答は70代では5割を超え、80歳以上では54.3%であった。(Q29)
- ・ 男女別では、女性のほうが「不安がある」と回答した人が多く、男性40.3%に対し、女性は54.4%であった。(Q29)

Q29「あなたは、将来身体が虚弱になって、日常生活を送る上で、排泄等の介護が必要な状態になるのではないかと不安になることがありますか」

<年齢別>



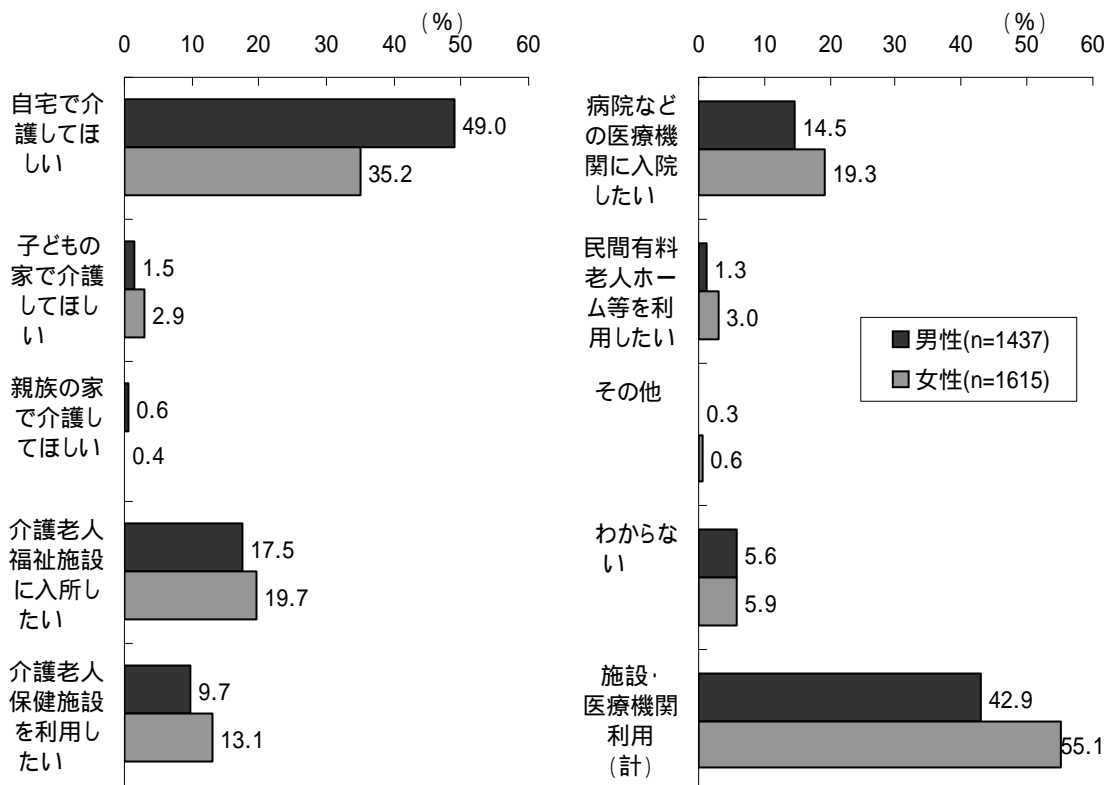
<男女別>



介護を受けたい場所について、男性は「自宅」、女性は「介護施設・医療機関」を希望。

- ・ 男性は「自宅で介護してほしい」が49.0%と最も高いが、女性では「介護老人福祉施設」、「介護老人保健施設」、「医療機関」をあわせると55.1%となり、「自宅」(35.2%)を上回る。(Q29SQ1)

Q29SQ1「もし仮に、あなたの身体が虚弱になって、日常生活を送る上で、排泄等の介護が必要になった場合、どこで介護を受けたいですか」

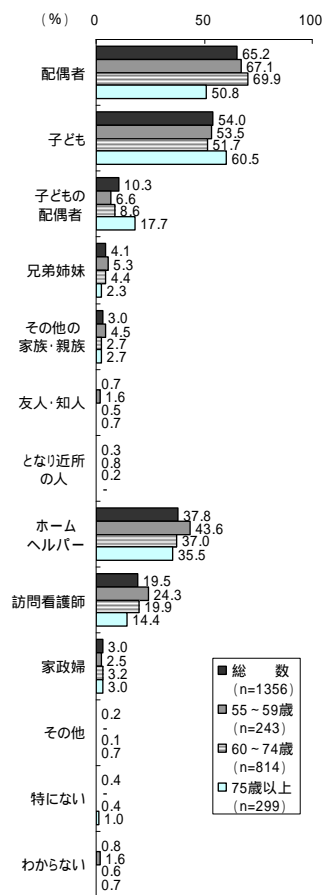


介護を頼む相手は、「配偶者」、「実子」、「ホームヘルパー」

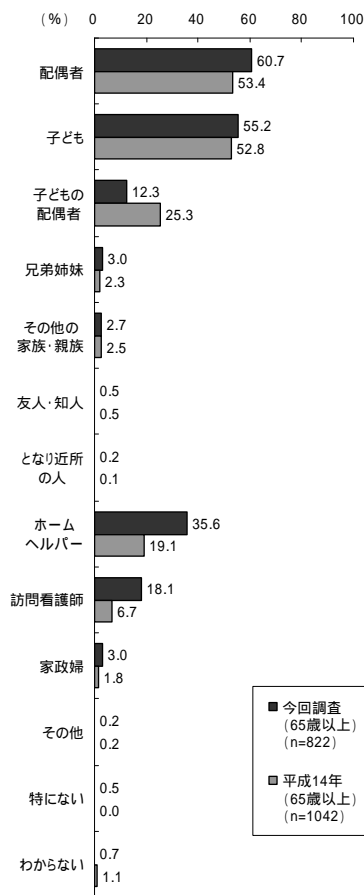
- ・ 介護を頼む相手について、総数では、「配偶者」が65.2%で最も高く、続いて「子ども（実子）」が54.0%、「ホームヘルパー」37.8%であった。（Q29SQ2）
- ・ 平成14年の調査と比較すると、「ホームヘルパー」や「訪問看護師」に介護を頼む人が増加する一方、「子どもの配偶者」は減少。（Q29SQ2）
- ・ 性別で見ると、介護を頼む相手について、男性は「配偶者」、「子ども（実子）」、「ホームヘルパー」の順。女性は「子ども（実子）」、「ホームヘルパー」、「配偶者」の順となっている。（Q29SQ2）

Q29SQ2「あなたはどなたに介護を頼むつもりですか」（3つまでの複数回答）

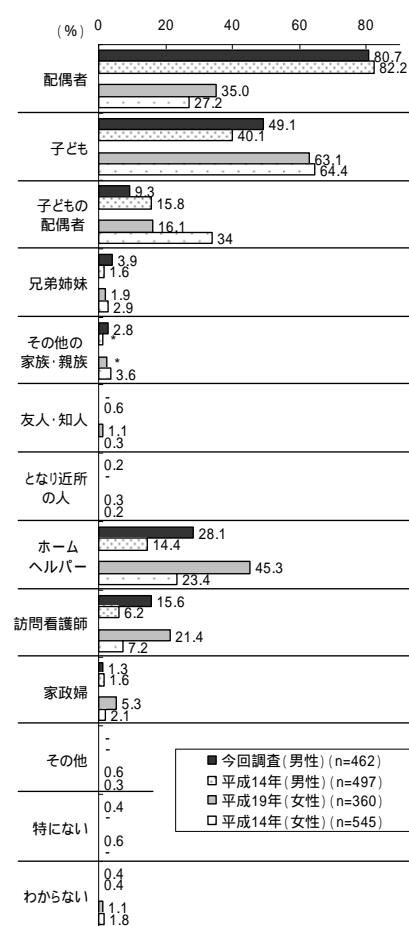
<全体・年齢別>



<時系列>



<男女別>



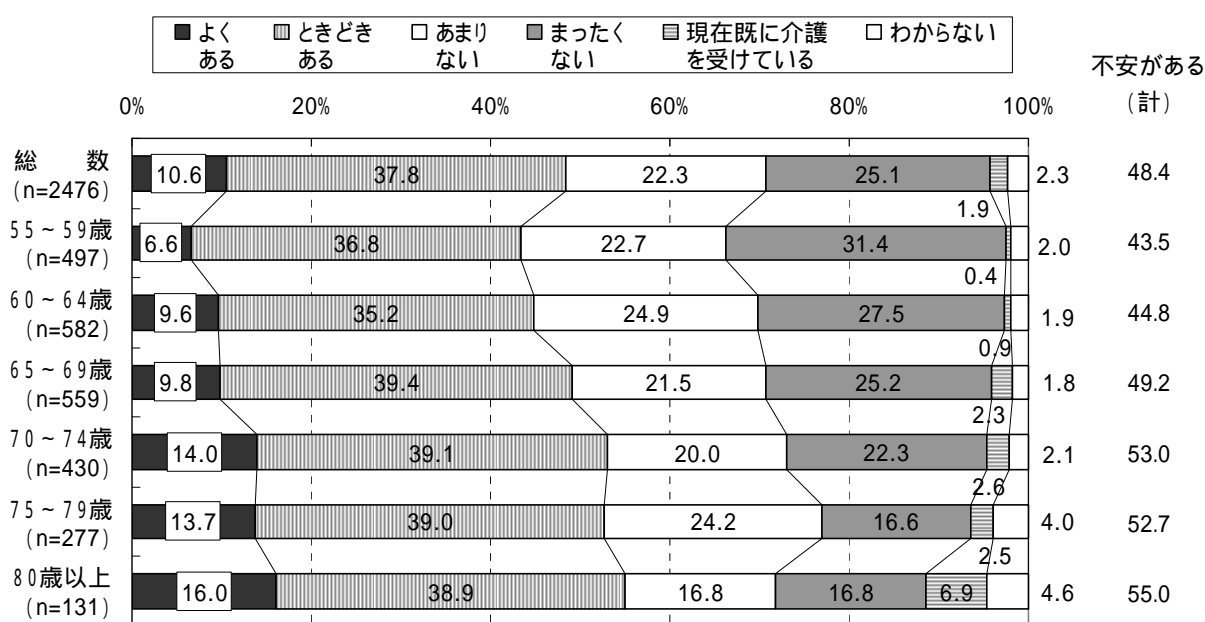
（対象者はQ29SQ1で「自宅・子どもの家・兄弟姉妹など親族の家で介護してほしい」のいずれかを選択した人。男女別に関しては対象者65歳以上。）

配偶者が将来介護が必要となる不安について、年齢が高くなるほど不安が強まり、70歳以上では5割を超える人が不安を感じている

- ・ 配偶者の介護が将来必要になる不安について、50代では4割超、70代では5割超、80歳以上では54.9%が不安を感じている。(Q30SQ1)

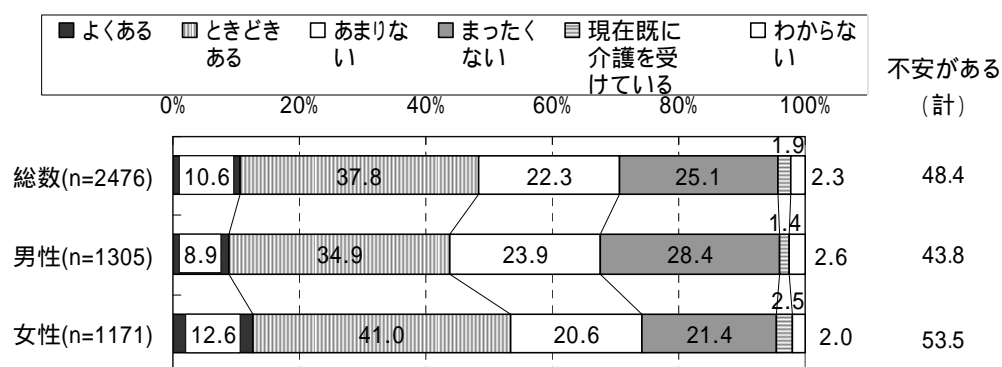
Q30SQ1「あなたの配偶者について、将来身体が虚弱になって、日常生活を送る上で、排泄等の介護が必要な状態になるのではないかと、不安になることがありますか」

<年齢別>



(対象者は配偶者と同居している人)

<男女別>

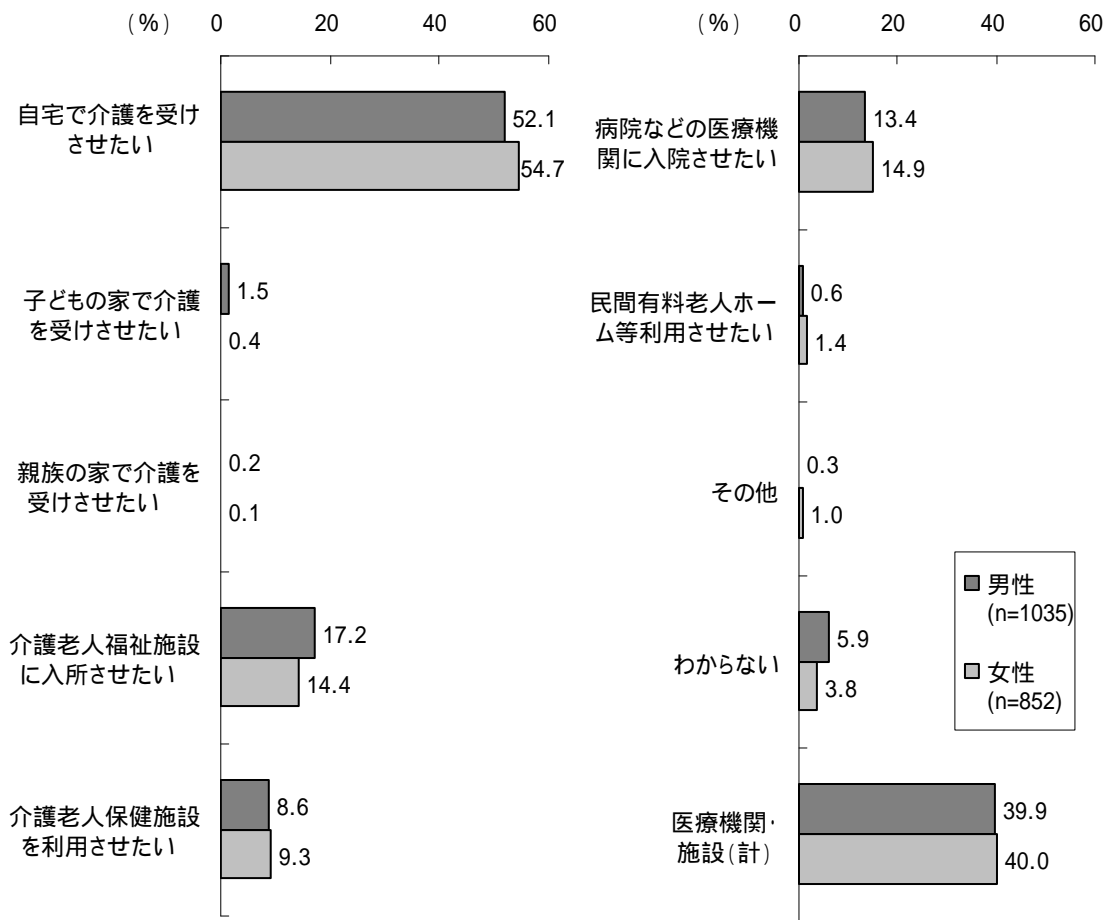


(対象者は配偶者と同居している人)

配偶者の介護を「自宅」で、と考える人は半数以上

- ・ 配偶者の介護について、「自宅で介護を受けさせたい」と回答した男性は52.1%、女性は54.7%であった。(Q30SQ2)
- ・ 「介護老人福祉施設」「介護老人保健施設」「医療機関」と回答した人は合計で男性が39.2%、女性が38.6%であった。(Q30SQ2)

Q30SQ2「もし仮に、あなたの配偶者のお身体が虚弱になって、日常生活を送る上で、排泄等の介護が必要な状態になった場合、どこで介護を受けさせたいですか」

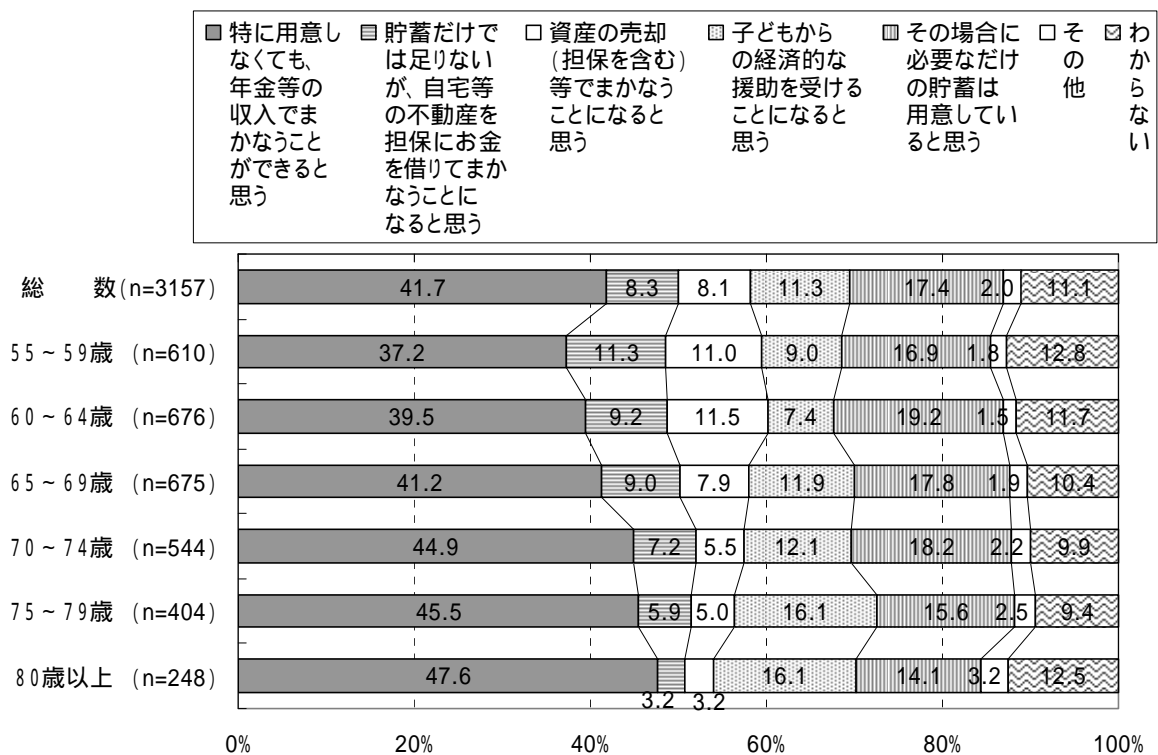


(対象者はQ30SQ1で「現在既に介護を受けている」、「わからない」以外に回答した人)

介護等の費用について、「特に用意しなくても、年金等の収入でまかなうことができると思う」との回答がどの年代でも最も多く、4割～5割を占める

- ・ 介護サービスや老人ホームの入居等に必要な費用について、「特に用意しなくても、年金等の収入でまかなうことができると思う」がどの年代でも最も高く、また、年齢が高くなるほどその比率が高くなる。60代前半では39.5%に対し、80歳以上では47.6%となった。(Q31)
- ・ また、「子どもからの経済的な援助を受けることになると思う」は年齢が高くなるほど、回答が多くなり、60代前半では7.4%、75歳以上では16.1%となった。(Q31)

Q31「子どもの介護などの世話を受たり、老人ホームに入居したり、在宅でホームヘルプサービスを受けたりする場合に、ある程度の費用が必要になります。それはどのようにしてまかなうことになると思いますか」

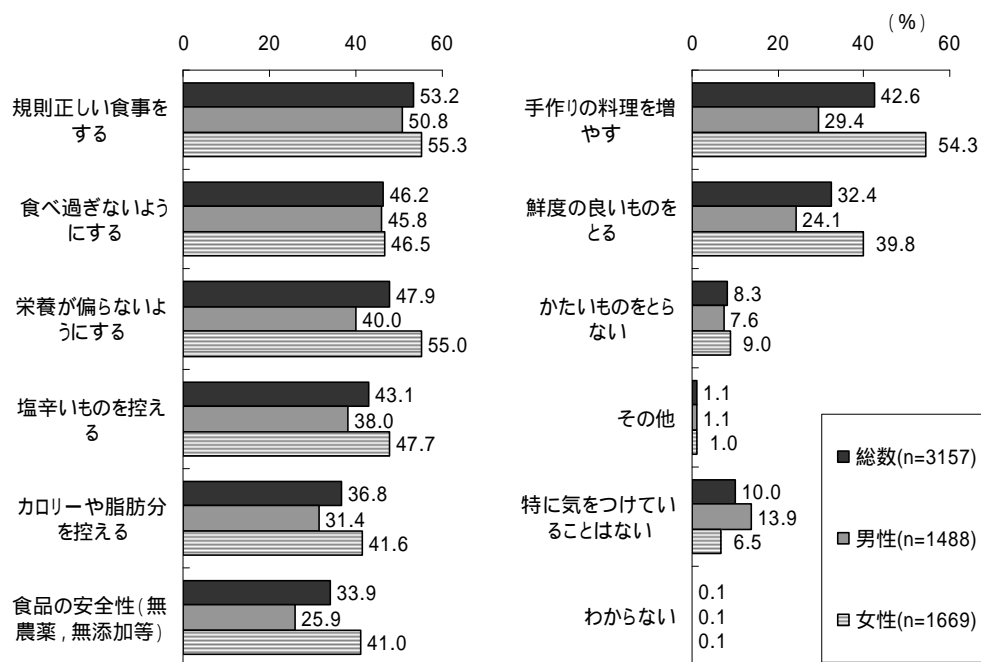


5. 食生活に関する事項

食事で気をつけていることは「規則正しく」・「栄養バランス」・「食べすぎない」

- ・ 総数では、「規則正しい食事をする」が53.2%で最も高く、以下、「栄養が偏らないようにする」が47.9%、「食べ過ぎないようにする」が46.2%、「塩辛いものを控える」が43.1%、「手作りの料理を増やすようにする」が42.6%であった。(Q32)

Q32 「あなたは、食事に関してどのようなことに気をつけていますか」(複数回答)

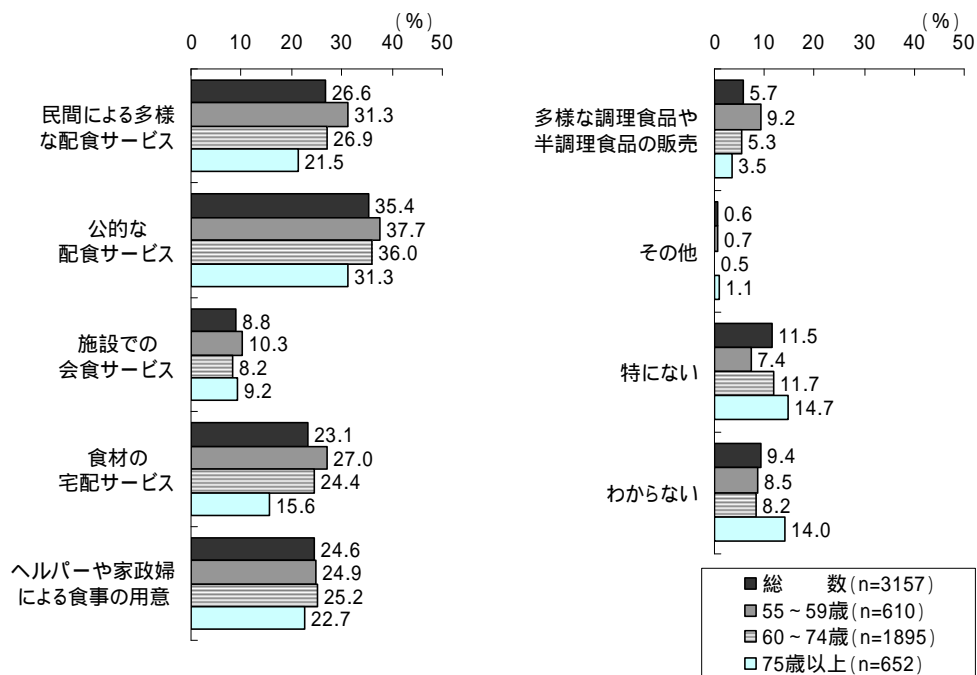


希望する食事サービスについて、どの年代も「公的な配食サービス」がトップ

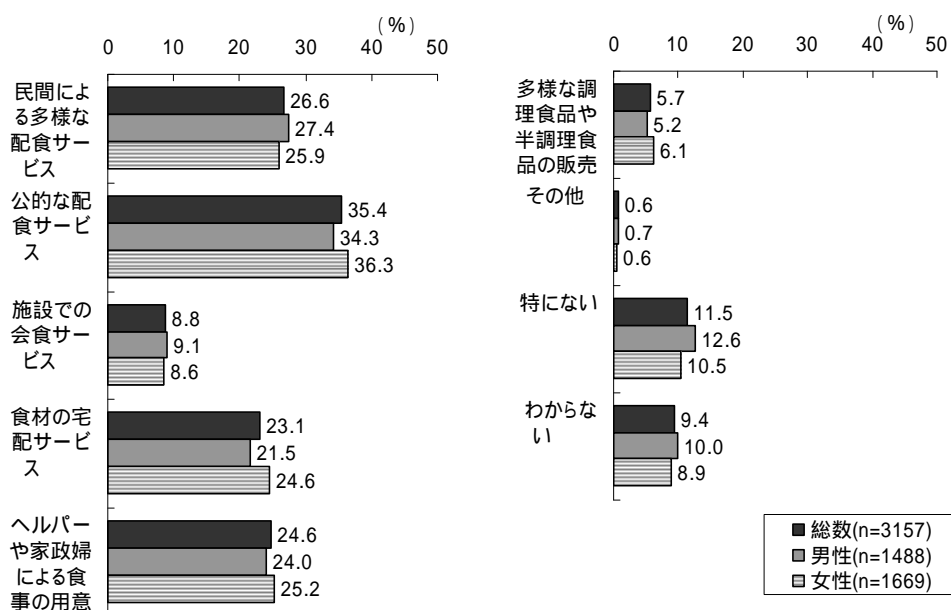
- ・ 「公的な配食サービス」が 35.4%で最も高く、以下、「民間による多様な配食サービス」が 26.6%、「ヘルパーや家政婦による食事の用意」が 24.6%、「食材の宅配サービス」が 23.1%となっている。(Q34)

Q34 「最近、食事に関する様々なサービスが提供されてきていますが、あなたは今後、仮に自分で食事の用意が出来なくなったり、用意してくれる人がいなくなった場合、どのようなサービスを利用したいと思いますか」(複数回答)

<年齢別>



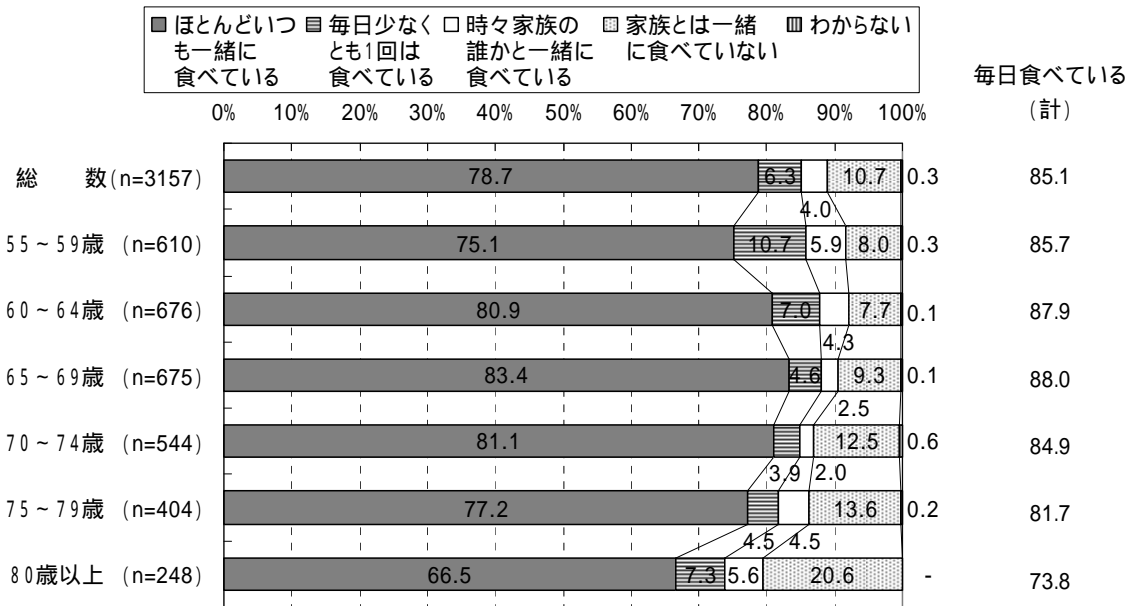
<男女別>



毎日家族と食べている人の割合は全体で約8割。80歳以上は他の年代と比較して少ない

- ・ 70代までは8割を超える人が家族と毎日食事をしているが、80歳以上では73.8%にとどまる。(Q35)
- ・ 70歳以上では、家族と一緒に食べていない人は1割を超え、80歳以上では20.6%と増える。(Q35)

Q35 「あなたは、ふだん、食事を家族と一緒に食べていますか」



約95%の人が食生活に満足している

- ・ 総数では「満足している」が57.3%と高く、「まあ満足している」が38.6%となっており、あわせると全体の95.9%を占めている。(Q36)

Q36 「あなたは、食生活全般に関して満足していますか」

